

2026年度（令和8年度）

事業計画書



目 次

	ページ
1. 法 人	5
2. 短 期 大 学	9
3. 専 攻 科	17
4. キリスト教活動	19
5. 研 究 活 動	21
6. 委 員 会 活 動	34
7. 広 報 活 動	50
8. 施設・設備・経費	52
9. 財務計算書 (5 年推移)	55

和泉短期大学の沿革

1956年5月 (昭和31年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が、米国財団クリスチャン・チルドレンズ・ファンドの援助のもとに バット博士記念養成所 を設立、収容施設従事者を対象とする諸々の現任訓練講習会を開催、従事者の技能研鑽を授け、以って我が国養護事業内容充実に力を尽くした。
1960年5月 (昭和35年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が我が国はじめての収容施設保母の養成を主眼とした 玉川保母専門学院 を東京都世田谷区に開設、同時に 児童福祉研究所 を開設して現任訓練及び研究事業を強化した。
1964年6月 (昭和39年)	玉川保母専門学院並びに児童福祉研究所を母体とした和泉短期大学開設並びに学校法人 クラーク学園 の設立準備に着手した。
1965年4月 (昭和40年)	学校法人クラーク学園 設立認可、 眞鍋頼一氏 が理事長に就任した。同じく 和泉短期大学 児童福祉科(定員40名)設立が認可され、 中島武夫氏 が学長に就任した。
1966年3月 (昭和41年)	幼稚園教諭二級普通免許状 取得のための正規の課程として認定された。
1971年11月 (昭和46年)	眞鍋頼一理事長逝去の為、理事 郷司浩平氏 が理事長に就任した。
1976年4月 (昭和51年)	中島武夫学長退任、後任として常務理事 野口敏雄氏 が学長に就任した。
4月	学生入学 定員250名 に変更認可された。
8月	全学神奈川県相模原市の 新校舎 に移転した。
1978年2月 (昭和53年)	郷司浩平理事長が退任、後任として理事 中島武夫氏 が理事長に就任した。
1981年2月 (昭和56年)	中島武夫理事長逝去の為、理事 伊藤忠利氏 が理事長に就任した。
7月	野口敏雄学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長代行として就任した。
1982年4月 (昭和57年)	北原歌子学長代行退任、後任として教授 花村春樹氏 が学長に就任した。
1985年4月 (昭和60年)	法人内に 和泉老人福祉専門学校 を開校した。(定員80名)
1986年6月 (昭和61年)	伊藤忠利理事長が退任、後任として理事 阪田勝三氏 が理事長に就任した。
1988年3月 (昭和63年)	和泉老人福祉専門学校が、厚生省より 介護福祉士養成校 としての指定認可を受けた。 (定員100名)
4月	短大児童福祉科で 社会福祉士国家試験受験資格 の指定科目の開設を届出た。
1990年4月 (平成2年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認可された。
1991年3月 (平成3年)	社会福祉主事任用資格 の科目の届出を行い、同資格を取得可能とした。
1992年2月 (平成4年)	保母養成課程 が改訂され、学則変更を行って新しい保母養成課程として認定された。
4月	和泉老人福祉専門学校の名称変更を行い、 和泉福祉専門学校 とした。
9月	花村春樹学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長に就任した。
1995年4月 (平成7年)	北原歌子学長退任、後任として 阪田勝三理事長 が学長に就任した。
1996年4月 (平成8年)	阪田勝三理事長退任、後任として理事 平良氏 が理事長に就任した。 阪田勝三学長退任、後任として 讃岐和家氏 が学長に就任した。

1999年4月 (平成11年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認定された。
2000年4月 (平成12年)	児童福祉科の名称変更を行い、 児童福祉学科 とした。
2001年4月 (平成13年)	男女共学制度 を導入した。
2002年4月 (平成14年)	讃岐和家学長退任、後任として教授 伊藤忠彦氏 が学長に就任した。
2006年5月 (平成18年)	学校法人クラーク学園 創立 50 周年記念式典 が行われた。
2008年3月 (平成20年)	(財)短期大学基準協会の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
6月	平良理事長 退任、後任として 伊藤忠彦学長 が理事長を兼任した。 (深町正信氏 が理事長に就任するまでの間)
10月	伊藤忠彦理事長 退任、後任として理事 深町正信氏 が理事長に就任した。
2010年3月 (平成22年)	和泉短期大学専攻科介護福祉専攻設置に伴い、和泉福祉専門学校を廃止した。
4月	和泉短期大学に 専攻科介護福祉専攻 を開設した。(定員 20名)
2013年4月 (平成25年)	学校法人クラーク学園の名称変更を行い、 学校法人和泉短期大学 とした。
2014年4月 (平成26年)	伊藤忠彦学長退任、後任として教授 佐藤守男氏 が学長に就任した。
2015年3月 (平成27年)	(財)短期大学基準協会の2回目の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
2016年5月 (平成28年)	法人創立 60 周年記念式典、祝賀会、記念講演を開催した。
2017年10月 (平成29年)	児童福祉研究室設置
2019年1月 (平成31年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認定された。
2020年6月 (令和2年)	深町正信理事長 退任、後任として理事 伊藤忠彦氏 が理事長に就任した。
2022年3月 (令和4年)	(一財)大学・短期大学基準協会の3回目の「認証評価」において『適格認定』の評価を受けた。
2022年4月 (令和4年)	学生入学定員 200名 に変更認可された。 伊藤忠彦理事長 退任、後任として理事 須田拓氏 が理事長に就任した。
2023年4月 (令和5年)	こども支援ソーシャルワーカー、ヒューマンソーシャルワーカー資格 を創設した。
2024年4月 (令和6年)	専攻科介護福祉専攻の名称変更を行い、 専攻科ヒューマンケア専攻 とした。
2026年4月 (令和8年)	学生入学定員 120名 に変更認可された。 佐藤守男学長退任、後任として教授 大下聖治氏 が学長に就任した。 法人創立 70 周年

設置学校 学校法人和泉短期大学
 理事長 須田 拓 (すだ たく)
 所在地：神奈川県相模原市中央区青葉 2-2-1
 学 長 大下 聖治 (おおした せいじ)

設置学科名	入学定員	収容定員
児童福祉学科 (2年制)	120名	320名
専攻科ヒューマンケア専攻 (1年制)	20名	20名

建学の精神

キリスト教信仰に基づく教育と人格形成

教育理念

2016年2月24日教授会改訂

本学は、建学の精神であるキリスト教信仰に基づき、
スクールモットーである愛と奉仕を実践する人、
地域社会のあらゆる局面で積極的な貢献を成し得る人、
保育・福祉専門職として謙虚に学び続ける意志をもつ人への実力養成教育を授ける。

スクールモットー

愛と奉仕

「あなたがたの光を人々の前で輝かしなさい。」(聖書：マタイによる福音書第5章16節)

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

2020年3月9日教授会改訂

本学の建学の精神(キリスト教信仰に基づく教育と人格形成)、スクールモットー(愛と奉仕)に基づくカリキュラムを履修して、卒業に必要な所定以上の単位を修得し、下記の要件を満たす学生に対し、短期大学士(児童福祉学)の学位を授与します。

1. 保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、基礎学力、幅広い教養、礼節を身につけ、多世代にわたる人々の人権を尊重できる。
2. 保育・福祉に関する専門的な学修を通じて、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。
3. 保育・福祉の専門的な価値観、知識・技能を修得し、自ら考える力、自ら行動する力、コミュニケーション能力を身につけている。
4. 保育・福祉の専門職として多角的な視点を持ち、共生社会の実現に向けて主体的かつ自律的に学び続け、愛と奉仕の精神を実践できる。

教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

2020年3月9日教授会改訂

本学は、Ⅰ教養、Ⅱ原理、Ⅲ知識・技能、Ⅳ実践の4科目群を配置しています。

Ⅰ教養は、キリスト教の精神を踏まえて、人々の権利を護り共に生きる人としての価値観を養うための科目

Ⅱ原理は、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕を実践する人間観を養うことができる科目

Ⅲ知識・技能は、子どもと子どもを取り巻く環境を知り、様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につけることができる科目

Ⅳ実践は、身につけた価値観・知識・技能を現場に即して実践し、共に成長する体験を積み重ねて学び直し、キャリア形成の基礎を培うことができる科目

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

2024年1月24日教授会改訂

【本学が求める人材像】

1. 本学の建学の精神（キリスト教信仰に基づく教育と人格形成）、スクールモットー（愛と奉仕）に基づき、すべての人々が共に生きる社会の実現に貢献したいと考える人。
2. 知識・技能、思考力・判断力・表現力等において、高等学校等で修得すべき基礎的な能力を身につけている人。

【入学者選抜の基本的方針】

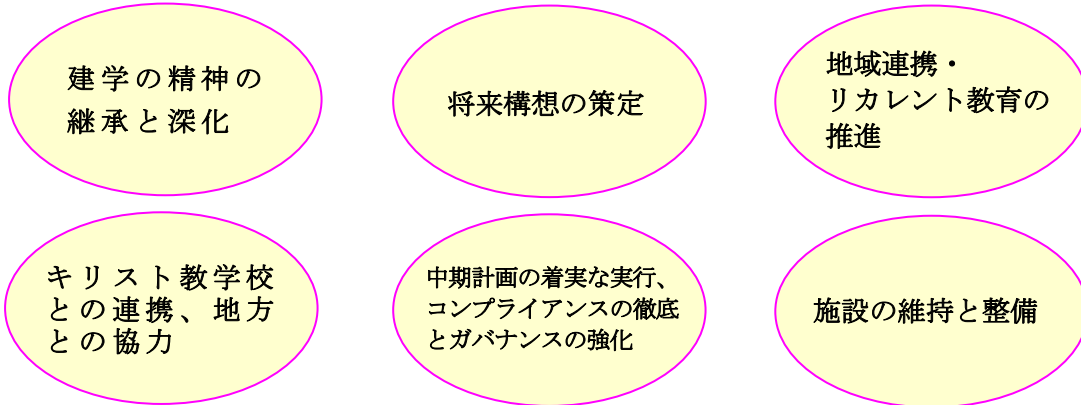
1. 入学者選抜は、高等学校等で修得すべき基礎的な能力および課題に積極的に取り組む意欲を有しているかについて評価する。
2. 筆記試験においては、主に知識・技能、思考力・判断力・表現力など、高等学校等で修得すべき基礎的な能力を、面接試験においては、主に保育・福祉への関心、好奇心など、学習に取り組む主体的意欲を評価する。

1. 2026 年度学校法人和泉短期大学基本構想

理事長 須田 拓

建学の精神 【キリスト教信仰に基づく教育と人格形成】

スクールモットー 【愛と奉仕】【「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」マタイによる福音書第 5 章 16 節】



大学を取り巻く環境

18 才人口の減少	大学進学率		入学定員未充足	大学の離学者・休学者
	大学	短期大学		
1992 年 205 万人 2024 年 106 万人 2040 年 76 万人 (予想)	1992 年度 24.6% 2025 年度 58.3%	1992 年度 11.7% 2025 年度 2.6%	2025 年度 大学 53.2% 短大 88.4%	約 61,500 人 2.7% (学習意欲の喪失、経済的困窮、 学生生活不適応、心身耗弱、疾患)

今年度の目標と課題

<p>1. 建学の精神の継承と深化</p> <p>毎週の礼拝を大切に学校としてキリスト教信仰にしっかりと立つと同時に、建学の精神を再確認し、継承することを大切にします。そして、全教職員が一つとなって、この時代における保育者・福祉従事者の養成のために力を注ぎます。</p>	<p>4. キリスト教学校との連携、地方との協力</p> <p>保育者養成校の閉校によって保育者養成に困難を覚える地域との連携を模索します。特に、キリスト教保育の担い手を養成するセンター的存在となることを目指します。</p>
<p>2. 将来構想の策定</p> <p>将来構想会議を継続し、子どもの成長を支援する社会の実現のために必要な、これからの時代の保育者・福祉従事者像を示すとともに、保育志望者がさらに継続的に興されてゆくために、そして本学が長期に亘って安定的に運営され得るよう、アイデアを出し合い、力を合わせます。</p>	<p>5. 中期計画の着実な実行、コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化</p> <p>第三次中期計画(2025 年度～2029 年度)の二年目になります。策定した中期計画を着実に実行して参ります。また、新私立学校法への対応を含め、コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化に努め、社会から信頼される学校であり続けたいと思います。</p>
<p>3. 地域連携・リカレント教育の推進</p> <p>地域密着型の保育者養成校として、地域との連携を深めて歩みを進めます。地域の方々の子育て支援を継続すると共に、リカレント講座や喀痰吸引等研修を実施し、この地域の保育の質向上にも貢献します。</p> <p>さらに、地域と連携して、保育志望者が継続して興されてゆくための方策を模索します。</p>	<p>6. 施設の維持と整備</p> <p>築 49 年を経過した建物を長く使用することができるよう、必要な補修をいたします。クラークホールや体育館入口吹き抜け部の天井耐震補強の見直しを立てます。ICT 環境についても、時代に合わせた情報を生かすことのできる設備と環境とを整えて参ります。</p>

1. 学校法人和泉短期大学

「2026年度事業計画」

理事長 須田 拓

和泉短期大学は本年、創立70周年を迎えます。本学は設立以来一貫して、保育者と福祉従事者の養成に力を注いで参りました。2025年度も児童福祉学科137名、専攻科7名の卒業生を送り出し、本学の卒業生は既に2万人を越えています。しかしこの数年、保育・福祉志望者が激減し、全国で養成校の閉校が相次いでおり、本学も入学者数が大きく減少しており、2026年度入学者は100名に満たない見込みです。

この地に必要な保育者数を考えますと、定員の大幅な削減は避けたいところですが、本学は修学支援制度を利用して就学する学生が非常に多く、従ってこの制度の対象校であるために収容定員充足率8割を確保する必要があることから、やむを得ず2026年度より入学定員を120名に削減いたしました。

しかし、20年後も子どもの数がそれほど大きく減少しない人口予想が出ているこの地域において、適切な保育体制が整備され維持され続けていくためにも、保育志望者が継続的に興され、質の高い保育者が育成されて送り出されてゆく社会が形成される必要があります。そしてそのためには何よりも、キリスト教保育を研究し教え、保育と福祉のあるべき姿を提示し続けてきた本学が重要な役割を果たすようなくてはなりません。

これまで12年にわたって学長をお務めくださった佐藤守男特任教授が学長を退任され、大下聖治教授が新学長に就任されます。新学長の下で、主なる神から与えられている本学の使命を確認しつつ、その使命の実現のために、教職員が一つとなって心新たに組み組んで参りたく思います。

そのために、2026年度は以下の6つの柱を掲げます。

1. 建学の精神の継承と深化

和泉短期大学は「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を建学の精神として掲げ、「愛と奉仕」をスクールモットーとし、一貫してこの精神によって歩みを続けて参りました。

この建学の精神は、保育・福祉の確かな担い手を養成するための基盤となるものであり、時代が変わっても変えてはならないものであると確信いたします。従って、これからの時代のために新しい学校運営の形を探る中でも、この建学の精神に根差した歩みが進められてゆくことが求められます。そのためにも、この建学の精神を常に確認し、より深く理解して、これからの歩みを構想して参りたく思います。

このために、主なる神を礼拝する学校として毎週の礼拝を大切にし、キリスト教信仰にしっかりと立ち続けると同時に、2024年度より教職員全体の修養会を行っています。2025年度は金城学院理事長・院長・大学長の小室尚子先生に講師としてお出でいただき、2026年度は東洋英和女学院院長の高橋貞二郎先生にお出でいただく予定です。こういったことを通して、他のキリスト教学校とも連携し、キリストの福音に根差した教育と人格形成の実現という共通の目標のために力を合わせて参りたく思います。

2. 将来構想の策定

2022年度以降、毎年2回あるいは3回、全学的に将来構想会議を開催して、これからの時代に必要とされる保育者・福祉の担い手とはどのようなものか、保育志望者激減の中でどのように保育者を確保してゆくのかなど、本学のこれからの歩みについて話し合い、夢を語り合う時を持って参りました。そしてそれを踏まえて、理事会とも連携して本学のこれからのあるべき姿を模索し、こども支

援ソーシャルワーカー、ヒューマンソーシャルワーカーの和泉独自資格の設立や、専攻科のヒューマンケア専攻へのリニューアルによる、これからの時代のための質の高い保育者養成の取り組み、ウェルビーイングルームの開設による学生支援の充実等、様々な施策が生まれ、実施してきました。

本年度もこれを継続し、子どもの成長を支援する社会の実現のために必要な、これからの時代の保育者・福祉従事者像を示すと共に、本学のあるべき姿について、そしてさらに、入学定員120名で成り立つ経営モデルについて模索して参りたく思います。また、将来構想の策定と実現のために、同窓会や後援会の皆様にもご協力いただければと願っております。

3. 地域連携・リカレント教育の実施

本学の教育は、卒業後も保育者・福祉の担い手を支え続け得るものです。本学が「卒業後も面倒見のよい学校」であるためにできることを模索し、実行して参りたく思います。その一つとして、リカレント教育の継続と充実を図ります。

また、本学は地域密着型の保育者養成校として歩んで参りました。その観点から、「はっぴい」や「すまいりい」を通じた地域の方々の子育て支援を継続すると共に、リカレント講座や喀痰吸引等研修を本学卒業生だけでなく地域の保育者にも開くことで、この地域の保育の質向上にも貢献できればと思います。

保育志望者の減少は、この地で保育・福祉を担う人の減少を意味し、社会全体に大きな影響を与えます。従って、相模原市や近隣市、県、そして保育現場との連携を深め、地域と共に、継続的に保育志望者を興してゆくための方策を模索し、積極的に取り組んでゆきたく願います。

4. キリスト教学校との連携、地方との協力

保育者養成校の相次ぐ閉校によって、保育者養成に困難を覚える地域が出始めています。そのような地域との連携も見据え、地方との協力を模索したいと思います。その中でも特に、キリスト教保育の継承者の育成に困難を覚えている地域は少なくありません。地方も含めたキリスト教学校やこども園・幼稚園・保育園等との連携を深め、これからの時代に必要とされるキリスト教保育の担い手を養成するセンター的役割を担うことを目指したく思います。

また、キリスト教保育の担い手養成の観点から、和泉保育園とのさらなる連携強化を目指したく願っております。

5. 中期計画の着実な実行、コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化

2026年度は本学の第三次中期計画（2025年度～2029年度）2年目にあたります。実施状況を確認しつつ、計画を着実に進めて参りたく思います。

また、2025年度より新私立学校法が施行され、本学もそれに合わせた体制作りに取り組んで参りました。引き続き、私立学校法をはじめとする諸法令に対応すると共に、本学のガバナンスコードに則ってガバナンスの強化に努め、社会から信頼される学校であり続けたいと思います。

6. 施設の維持と整備

本館1号館は築49年を経過しましたが、2025年度はエレベータの設置と学生ホールの改装といった、時代に合わせた整備を行いました。本年度は、建物をさらに長く使用するために、必要な補修を計画に則って実施すると共に、クラークホールや体育館入口の吹き抜けの天井耐震補強について見通しを立てたく思います。

ICT環境についても、引き続き、教育・事務の両面において、時代に合わせた情報を生かすことのできる設備と環境とを整えて参ります。

法人事業計画

○理事会

第1回	2026年	5月	22日(金)	理事会(決算)	於：和泉短期大学
第2回	2026年	7月	25日(土)	理事会(職務執行状況の報告)	於：和泉短期大学
第3回	2026年	10月	16日(金)	理事会(予算骨子)	於：和泉短期大学
第4回	2027年	1月	23日(土)	理事会	於：和泉短期大学
第5回	2027年	3月	20日(土)	理事会(予算)	於：和泉短期大学

○評議員会

第1回	2026年	5月	30日(土)	評議員会(決算)	於：和泉短期大学
第2回	2026年	10月	16日(金)	評議員会(予算骨子)	於：和泉短期大学
第3回	2027年	3月	20日(土)	評議員会(予算)	於：和泉短期大学

○学内運営協議会

- ▶ 出席者(9名)：理事長、学長、副学長、チャプレン、教務部長、事務局長、学生部長、事務局次長2名

2026年	4月	6日(月)	4月	13日(月)	4月	20日(月)	4月	27日(月)
	5月	11日(月)	5月	18日(月)	5月	25日(月)	6月	1日(月)
	6月	8日(月)	6月	15日(月)	6月	22日(月)	6月	29日(月)
	7月	6日(月)	7月	13日(月)	7月	27日(月)	8月	24日(月)
	8月	31日(月)	9月	7日(月)	9月	14日(月)	9月	28日(月)
	10月	5日(月)	10月	19日(月)	10月	26日(月)	11月	2日(月)
	11月	9日(月)	11月	16日(月)	11月	30日(月)	12月	7日(月)
	12月	14日(月)						
2027年	1月	18日(月)	1月	25日(月)	2月	1日(月)	2月	8日(月)
	2月	15日(月)	2月	22日(月)	3月	1日(月)	3月	8日(月)
	3月	15日(月)						

(全38回)

○法人行事

2026年	4月	6日(月)	イースター礼拝
	5月	18日(月)	創立記念礼拝
	5月	25日(月)	ペンテコステ礼拝
	10月	19日(月)	召天者記念礼拝
	10月	26日(月)	宗教改革記念礼拝
	11月	30日(月)	アドベント礼拝
	12月	5日(土)	クリスマス・コンサート
	12月	7日(月)	アドベント礼拝
	12月	14日(月)	クリスマス礼拝
2027年	1月	6日(水)	教職員新年礼拝、教職員修養会
	3月	15日(月)	卒業・修了感謝礼拝

2. 和泉短期大学

「2026年度事業計画」

学長 大下 聖 治

2020年から国による高等教育の修学支援制度が始まり、現在では、住民税非課税世帯・生活保護世帯・多子世帯の学生を対象に、学生本人への奨学給付金と進学する大学等の授業料・入学金が減免されます。この給付奨学生で進学できる大学等には、国が定める条件があり、その中に、収容定員に関する要件も含まれております。3年連続で大学全体の学生数が収容定員の8割に満たない場合、新入生はこの制度を利用できなくなります。

2025年度において本学では、1年生の39.8%(50名)、2年生の約30.8%(45名)がこの修学支援制度(給付)を受けているという現実があります。

本学がこの制度の対象校から外れてしまうと、本学に進学したくても進学できない受験生が出てきて、ある一定数の受験生から選ばれなくなる可能性が非常に大きくなることとなり、経営上、危機的状況に陥ることが推測されます。2024年度にこの制度から除外された短大は31校に上り、このうち15校が2025～2027年度での募集停止を発表するという実態があります。

その状況を回避するため、1学年200名の定員数を、2026年度の1年次より120名に削減し、2027年度収容定員を240名にする決断を致しました。

しかしながら、受験者数の減少に歯止めがかからないまま、2026年度の入学者数は、120名に届かないことが確定しております。

少子化の進行に伴う18歳人口の減少や4年制大学志向の高まり、保育・福祉職に対する処遇や職場環境等のマイナスイメージが影響していることは今なおお認めません。全国的にみても、保育者養成施設は大変に厳しい状況にあり、学生募集停止を決断せざるを得ない大学・短大は益々増加することが予想され、神奈川県も例外ではありません。

しかしながら、2026年で創立70周年を迎える本学は、今後75周年、80周年、そして保育・福祉を必要とする社会が続く限り、「地域に根差すキリスト教信仰に基づく保育者養成」という使命を果たしていかなければなりません。

そのためにも、入学志願者数の減少に歯止めをかけ、本学が先人たちにより培ってきた経営的体力を温存し、建学の精神に裏付けされた保育・福祉従事者の養成にあたっていく環境を整えていくことが急務であります。

そしてその使命を果たしていくためには、和泉短期大学のブランド力を高めていくことが重要且つ急務であると考えております。

そのような中、2026年度の事業計画として、以下の5つの柱を掲げます。

1. 「建学の精神」と「スクールモットー」の深化

本学は建学の精神に「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を掲げ、「愛と奉仕」をスクールモットーとしております。キリスト教学校だからこそ「愛と奉仕」の精神を持った保育・福祉従事者の養成を担っていかなければなりませんし、それを担うことのできる学校でもあります。

そのためにも、キリスト教学校の土台となる「礼拝」をより豊かなものとし、2024年から始まった

教職員全体の修養会を今後も継続していくこと、そして学生が教会での礼拝に参加する取組を、より充実させていくことも肝要です。

建学の精神を全学で共有し、全教職員が一つとなって、「キリスト教信仰に基づく」保育者・福祉従事者の養成のために力を注ぎたく思います。そしてそのことが、和泉短期大学というブランドを確立し、「キリスト教保育は和泉」を広く知らしめることに繋がるものと考えております。

2. 学生募集力強化に向けた取組 入試改革と広報活動の強化

大学入学と SNS 利用の関連性については、ここ数年、特に新入生のコミュニケーションにおいて SNS の重要性が高まっています。2025 年度の調査結果によると、大学生の 9 割以上が SNS を利用しており、特に入学前の情報収集や友達作りに積極的に活用されている傾向が高まってきているとの報告もあります。

SNS は「友達作り」や「大学選びの情報源」など、多機能かつ重要なツールとなっています。和泉短期大学を広く認知してもらい、また本学の特色をアピールする手段として、そして保育者養成施設の撤退が相次ぐ地方都市をターゲットとした学生募集活動のツールとして、Instagram やインフルエンサーを活用した PR を行い、学生募集力強化に繋がる戦略に力を入れていく必要があると考えます。

また、受験生が進路を検討する際の重要な要素の一つであるオープンキャンパスについても工夫していきたいと考えます。例えば、学校帰りに友達同士で気軽に立ち寄れる「放課後キャンパス(仮)」、時間や距離の制約を受けない「オンライン-オープンキャンパス」、また、在学生、卒業生たちのアイデアを積極的に活かした学生目線のプログラム等を積極的に実施していきたいと思えます。

そして、地方の入学希望者が受験しやすい入試システムについても検討してまいります。

3. 学校法人和泉短期大学の体力維持・向上に向けた取組と組織・業務の効率化

本学がこれからも持続発展するためには、本学のミッションを確認し、ビジョンを共有して一緒に戦略をたてて、目的や目標を達成することに働き甲斐と達成感を感じられる組織運営が重要であると考えています。和泉短期大学の教職員であることに誇りと喜びを感じられること、それが和泉短期大学存続の重要な条件だと思えます。

そのため、今後、10 年先、20 年先を見据えた組織づくりを行っていかねばなりません。今後の和泉短期大学のために必要な委員会活動等を見直すことはもちろん、業務の IT 化にも取り組んでいかねばならないと考えます。IT 化は、教育の質向上、業務効率化、そして研究環境の整備を進めるのに必要不可欠であり、そのために必要となる経費については戦略的投資と捉え、まずは「教育・研究・業務」の 3 領域での強化を目指して事務局、及び関係各所と諮りながらできるところから着実に進めてまいります。

また、第 2 の経営的基盤の確立に向けた取組として、地域企業との連携を図り、和泉短期大学に蓄積されてきた研究成果や知見、学生、卒業生のアイデアを活かした商品等の開発・販売についても模索していきたいと考えています。

4. ステークホルダーとの連携・協力体制の強化

ステークホルダーとの連携・協力体制を強化することは、現代の大学運営において「信頼の獲得」「教育・研究力の向上」「学生募集力の強化」、そして「和泉ブランド力の向上」に不可欠な戦略である

と考えます。定期的な意見交換、研修の場を設けていくことで、共通認識を持った戦略構築に繋がっていくことが期待できます。

父母会、同窓会、後援会を始め、保育福祉業界、自治体、高等学校、そして和泉保育園との連携強化により、様々な分野からの協力・知見を得られるのみならず、和泉ブランド力の向上とともに、質の高い保育者の排出、学生募集力の強化にも繋がるものと考えます。

5. 地域連携とリカレント教育の推進

本学で培われた研究成果や知見を社会に提供することは、地域や保育福祉業界の発展に貢献し、「地域に根差す保育者養成校の和泉」という本学のイメージを高めることに繋がります。現在、子育て支援として「はっぴい」「すまいいい」を開催しており、児童福祉研究室の子育てに関する相談支援も行っています。

また、2023年度より、「リカレント講座（現任研修・公開講座）」を実施し、多くの参加者を得ています。リカレント講座は、新しい知識やスキルを習得し、専門性を深めることで、転職やキャリアチェンジの可能性が広がり、学びを通じて自己成長やキャリアの充実に寄与するものであります。この講座を本学卒業生のみに限らず、地域のエッセンシャルワーカーにも開放することは、和泉短期大学の教育と取組を広く知らしめることにも繋がります。

今後も地域社会、保育福祉現場のニーズに応じたテーマでのリカレント講座を開講していくことはもちろん、将来的にはハイブリット方式等を活用し、遠方からの受講希望者にも開かれた開催を模索していきたいと考えております。

以上、2026年度の事業計画として5つの柱を掲げましたが、5年先、10年先も、建学の精神に裏付けされた保育者養成を担う和泉短期大学が存続しているための基盤づくりに力を尽くしたいと思います。

(1) 学事予定

2026年	4月	1日(水)	入学式
		2日(木)	1年前期オリエンテーション 2年前期始業礼拝、前期オリエンテーション、グループミーティング 専攻科前期オリエンテーション、教科書販売
		3日(金)	1年健康診断、教科書・画材販売 2年健康診断、アセスメントテスト① 専攻科健康診断、前期授業開始 教職員健康診断
		6日(月)	イースター礼拝、学長任職式 1年、2年前期授業開始
		7日(火)	1年新入生研修会、アセスメントテスト①
		20日(月)	新入生歓迎プログラム
		25日(土)	オープンキャンパス①、はっぴい①
		27日(月)	サークル勧誘デー
5月	13日(水)		2026年度第1回創立記念フェア 実習指導連絡会(幼稚園)
		15日(金)	創立記念日
		18日(月)	創立記念礼拝
		20日(水)	高校教員対象進学説明会①
		23日(土)	オープンキャンパス②、はっぴい②
		25日(月)	ペンテコステ礼拝
		29日(金)	高校教員対象進学説明会②
6月	1日(月)		1年避難・防災訓練、感謝の祈り インターンシップ①幼稚園(保育体験)行先別事前授業 2年実習(幼稚園)〈6月19日(金)まで〉 専攻科介護実習Ⅰ〈6月8日(月)まで〉
		5日(金)	ナイトオープンキャンパス①
		9日(火)	専攻科実習Ⅰ予備日
		13日(土)	オープンキャンパス③、はっぴい③
		15日(月)	1年児童福祉施設紹介、インターンシップ②保育園、インターンシップ③施設の説明
		22日(月)	1年インターンシップ①幼稚園(保育体験)(全教員) 2年実習予備日
7月	1日(水)		FD研修会(将来構想会議) 2026年度第2回サマーフェア
		4日(土)	オープンキャンパス④、はっぴい④
		10日(金)	ナイトオープンキャンパス②
		16日(木)	1年前期定期試験①
		17日(金)	1年前期定期試験②
		18日(土)	オープンキャンパス⑤、はっぴい⑤
		20日(月)	1年前期定期試験③、2年・専攻科月曜日分授業日
		21日(火)	1年前期定期試験④、専攻科前期授業終了
		22日(水)	1年前期定期試験⑤ 専攻科介護実習Ⅰ(訪問介護)〈8月3日(月)まで〉
		23日(木)	1年夏期休業開始〈8月30日(日)まで〉
		31日(金)	1年成績報告書締切日
8月	1日(土)		オープンキャンパス⑥、はっぴい⑥
		4日(火)	2年前期定期試験①、専攻科前期定期試験①
		5日(水)	2年前期授業終了、専攻科前期定期試験②
		6日(木)	2年前期定期試験②、専攻科前期定期試験③
		7日(金)	2年前期定期試験③、専攻科前期定期試験④
		8日(土)	2年前期定期試験④、専攻科前期定期試験⑤
		10日(月)	2年前期定期試験⑤

8月	12日(水)	2年夏期休業開始、専攻科夏期休業開始(2年:9月18日(金)まで、専攻科:8月23日(日)まで)
	17日(月)	「災害と保育」フィールドワーク(8月19日(水)まで)
	21日(金)	2年、専攻科成績報告書締切日
	22日(土)	オープンキャンパス⑦、はっぴい⑦
	23日(日)	専攻科夏期休業終了
	24日(月)	2年(1年再履修科目)前期再試験発表 専攻科グループミーティング、前期再試験発表、集中講義 専攻科i日程①
	25日(火)	専攻科集中講義
	26日(水)	2年(1年再履修科目)再試験①、専攻科集中講義
	27日(木)	2年(1年再履修科目)再試験②、専攻科集中講義 専攻科前期再試験①
	28日(金)	おもちゃインストラクター養成講座 専攻科後期授業開始、水曜日分授業日、 専攻科前期再試験②
	29日(土)	現任研修&公開講座
	30日(日)	1年夏期休業終了
	31日(月)	1年後期始業礼拝、グループミーティング、オリエンテーション、 前期再試験発表、アセスメントテスト② 専攻科後期始業礼拝、オリエンテーション、後期授業開始
	1日(火)	2年保育実習Ⅱ(保育所・施設)(9月16日(水)まで)
9月	2日(水)	1年前期再試験①
	3日(木)	1年前期再試験②
	5日(土)	総合型選抜Ⅰ期①
	7日(月)	1年後期授業開始
	12日(土)	総合型選抜Ⅰ期②
	14日(月)	1年インターンシップ②保育園(ふれ合い体験)③福祉施設 振り返り
	17日(木)	2年実習予備日
	18日(金)	2年夏期休業終了 ナイトオープンキャンパス③
	19日(土)	2年後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、 前期再試験発表、アセスメントテスト②
	24日(木)	2年前期再試験①
	25日(金)	2年後期授業開始
	26日(土)	2年前期再試験② 総合型選抜Ⅱ期①
	30日(水)	相模原市内高校長との教育研究会
10月	3日(土)	はっぴい⑧
	7日(水)	総合型選抜Ⅱ期②ナイト、専攻科実習連絡会
	10日(土)	専攻科i日程②
	12日(月)	総合型選抜Ⅱ期③、月曜日分授業日
	16日(金)	ナイトオープンキャンパス④
	19日(月)	召天者記念礼拝
	23日(金)	実習報告会、いずみ祭準備
	24日(土)	いずみ祭(ホームカミングデイ、保証人会) いずみ祭進学説明会
	26日(月)	宗教改革記念礼拝 専攻科介護実習Ⅱ(11月24日(火)まで)
	28日(水)	総合型選抜Ⅲ期①ナイト
	31日(土)	総合型選抜Ⅲ期②
11月	3日(火)	1年、2年火曜日分授業日
	6日(金)	専攻科帰校日
	7日(土)	はっぴい⑨

	11月	11日 (水)	実習指導連絡会 (保育所・施設)
		21日 (土)	学校推薦型選抜[指定校、キリスト教、公募、専門]
		23日 (月)	1年、2年月曜日分授業日
		25日 (水)	専攻科介養協学力評価テスト
		28日 (土)	総合型選抜Ⅲ期③、社会人特別選抜Ⅰ期
		30日 (月)	アドベント礼拝
	12月	5日 (土)	プレ入学前教育体験 はっぴい⑩、和泉短期大学クリスマスコンサート
		7日 (月)	アドベント礼拝
		8日 (火)	2026年度第3回クリスマスフェア
		12日 (土)	総合型選抜Ⅳ期、専攻科A日程
		14日 (月)	クリスマス礼拝
		15日 (火)	1年後期定期試験①、こども支援ソーシャルワーカー集中講座(12月16日(水)まで)
		16日 (水)	1年後期定期試験②
		17日 (木)	1年後期定期試験③ 2年後期授業中断、冬期休業開始(2027年1月6日(水)まで)
		18日 (金)	1年後期定期試験④、後期授業中断 専攻科後期授業中断、冬期休業開始(2027年1月5日(火)まで)
		19日 (土)	1年冬期休業開始(2027年1月5日(火)まで)
2027年	1月	5日 (火)	1年、専攻科冬期休業終了
		6日 (水)	教職員新年礼拝、教職員修養会、専攻科学内テスト 2年冬期休業終了
		7日 (木)	1年後期定期試験⑤ 2年、専攻科後期授業再開
		11日 (月)	専攻科月曜日分授業日
		12日 (火)	1年保育実習Ⅰ(保育所・施設)(1月27日(水)まで)
		16日 (土)	入学前教育①、総合型選抜Ⅴ期①、専攻科B日程 はっぴい⑪
		18日 (月)	1年成績報告書締切日
		19日 (火)	2年後期授業終了
		20日 (水)	2年後期定期試験① 専攻科国家試験対策講座(21日(木)まで)
		21日 (木)	2年後期定期試験②
		22日 (金)	2年後期定期試験③
		25日 (月)	2年後期定期試験④、(1年再履修科目)後期再試験発表
		26日 (火)	2年後期定期試験⑤、専攻科後期授業終了
		27日 (水)	2年(1年再履修科目)再試験① 専攻科事例発表会
		28日 (木)	1年実習予備日、2年追再実習(2月18日(木)まで) 専攻科後期定期試験①
		29日 (金)	専攻科後期定期試験②
2月	1日 (月)		1年実習授業、後期再試験発表 2年卒業前グループミーティング、(1年再履修科目)再試験② 専攻科後期定期試験③
		2日 (火)	2年成績報告書締切日、専攻科後期定期試験④
		3日 (水)	1年実習授業、専攻科後期定期試験⑤ 入学前教育②
		4日 (木)	1年後期再試験(2月5日(金)まで)
		6日 (土)	総合型選抜Ⅴ期②、専攻科C日程 オープンキャンパス⑧、はっぴい⑫
		8日 (月)	1年保育実習Ⅰ(施設・保育所)(2月25日(木)まで) 専攻科成績報告書締切日
		12日 (金)	2年、専攻科後期再試験発表
		13日 (土)	一般選抜、社会人特別選抜Ⅱ期

2月	15日(月)	2年、専攻科後期再試験〈2月16日(火)まで〉
	19日(金)	2年実習予備日、2年追再実習者再試験
	24日(水)	2027年度全教員打合せ会
	26日(金)	1年実習予備日
	27日(土)	総合型選抜Ⅴ期③、専攻科D日程
3月	1日(月)	1年実習授業
	3日(水)	入学前教育③
	15日(月)	2年卒業感謝礼拝、卒業証書・学位記授与式予行練習 専攻科修了感謝礼拝、修了証書授与式予行練習
	16日(火)	2年卒業証書・学位記授与式、専攻科修了証書授与式
	27日(土)	オープンキャンパス⑨、はっぴい⑬

(2) 実習

2026年	6月	1日(月)	～6月19日(金)	2年幼稚園
	6月	1日(月)	～6月8日(月)	専攻科介護実習Ⅰ
	7月	22日(水)	～8月3日(月)	専攻科介護実習Ⅰ(訪問介護)
	9月	1日(火)	～9月16日(水)	2年保育実習Ⅱ(保育所・施設)
	10月	26日(月)	～11月24日(火)	専攻科介護実習Ⅱ
2027年	1月	12日(火)	～1月27日(水)	1年保育実習Ⅰ(保育所・施設)
	1月	28日(木)	～2月18日(木)	2年追再実習
	2月	8日(月)	～2月25日(木)	1年保育実習Ⅰ(施設・保育所)

児童福祉学科 入試日程一覧

入試区分	面談日	エントリー 期間	出願許可 判定教授会	出願 許可	出願期間	合格 発表日	判定 教授会	入学手続 期間
総合型選抜 I期① 総合型選抜 I期② 愛の泉スカラシップ 入試を含む	9/5 (土)	8/27(木)～ 9/2(水)	9/7 (月)	9/8 (火)	9/18 (金)	11/1 (日)	10/21 (水)	11/3 (火) ～ 11/17 (火)
	9/12 (土)	9/3(木)～ 9/9(水)	9/16 (水)	9/17 (木)	9/25 (金)			
総合型選抜 II期①	9/26 (土)	9/17(木)～ 9/24(木)	9/28 (月)	9/29 (火)	9/30 (水) ～ 10/7 (水)	11/2 (月) [追認]	11/2 (水) [追認]	
総合型選抜 II期② (ナイト入試)	10/7 (水)	9/25(金)～ 10/2(金)	10/12 (月)	10/13 (火)	10/14(水)～ 10/21(水)			
総合型選抜 II期③	10/12 (月)	10/1(木)～ 10/7(水)						
総合型選抜 III期① (ナイト入試)	10/28 (水)	10/16(金)～ 10/23(金)	11/2 (月)	11/3 (火)	11/4(水)～ 11/11 (水)	11/18 (水)	11/25 (水) [追認]	11/19 (木) ～ 11/26 (木)
総合型選抜 III期②	10/31 (土)	10/22(木)～ 10/28(水)						
学校推薦型選抜 指定校推薦	11/21 (土)	——			11/ 1(日)～ 11/ 16(月)	12/1 (火)	11/25 (水)	12/2 (水) ～ 12/16 (水)
学校推薦型選抜 キリスト者・キリス ト教学校推薦								
学校推薦型選抜 公募推薦 専門高校推薦								
総合型選抜 III期③	11/28 (土)	11/18(水)～ 11/25(水)	11/30 (月)	12/1 (火)	12/2(水)～ 12/9(水)	12/16 (水)	12/16 (水) [追認]	12/17 (木) ～ 12/24 (木)
社会人特別選抜 I期	11/28 (土)	——			11/18(水) ～ 11/25(水)	12/1 (火)	11/30 (月)	12/2(水)～ 12/16 (水)
総合型選抜IV期	12/12 (土)	12/3(木)～ 12/9(水)			12/18(金)～ 12/24 (木)	1/8 (金)	1/20 (水) [追認]	1/12 (火)～ 1/19(火)
総合型選抜V期①	1/16 (土)	1/7(木)～ 1/13(水)	1/20 (水)	1/21 (木)	1/22(金)～ 1/29(金)	2/3 (水)	2/17 (水) [追認]	2/4 (木)～ 2/12 (金)
総合型選抜V期②	2/6 (土)	1/28(木)～ 2/3(水)	2/8 (月)	2/9 (火)	2/10(水)～ 2/17(水)	2/19 (金)	3/10 (水) [追認]	2/22 (水)～ 3/2 (火)
一般選抜	2/13 (土)	——			2/3 (水)～ 2/9 (火)	2/18 (木)	2/17 (水)	2/19 (金)～ 2/26 (金)
社会人特別選抜 II期								
総合型選抜V期③	2/27 (土)	2/18(木)～ 2/24 (水)	3/3 (水)	3/4 (木)	3/5 (金)～ 3/7 (日)	3/9 (火)	3/17 (水)	3/10(水)～ 3/12(金)

神奈川県委託訓練生 専門人材育成コース (保育士)

ハローワーク、神奈川県立東部総合職業技術校、人材育成支援 センター 各地区のハローワーク扱い	募集期間
	2027年2月末、 3月中旬(予定)

3. 専攻科ヒューマンケア専攻

1. 「ヒューマンケア専攻」2つの資格取得のための取り組み
 - (1)ガイドヘルパー（知的障がい）資格
 - (2)ヒューマンソーシャルワーカー資格（認定資格）
2. 介護福祉士国家試験対策に強い教育体制の構築
 - ①授業内での小テストの施行（前期～後期）
 - ②介養協学力評価テスト(12月)
 - ③国家試験対策学内テスト（1月）
 - ④学内国家試験対策（2日間）
 - ⑤夏休み・冬休み課題と冬休みの補習
 - ⑥学力評価テストや国家試験対策学内テストの結果を学生に視覚化し指導
3. 実習の充実
 - (1)施設見学実習の実施
 - (2)学生個々に応じた実習指導の充実
 - (3)実習巡回指導の充実
 - (4)事例研究の指導・事例集作成
 - (5)事例研究発表会の開催（1月）
 - (6)専攻科教育実習連絡会の開催（10月）
4. 広報委員会と連携し、高校・保護者への専攻科の周知と入学者安定を図る
 - (1)高大連携授業での周知・積極的な中・高校への出前授業の受け入れ
 - (2)高校教員進学説明会・学校長との懇談会での専攻科の周知
 - (3)専攻科教員によるオープンキャンパスでの保護者への周知
 - (4)専攻科教員による書面や保証人会での入学案内
 - (5)ホームページやSNSを通じた専攻科の周知
 - (6)指定校への案内状送付
 - (7)専攻科学内広報 1年生から積極的な専攻科アナウンスを図る
 - ①12月 1年生キャリアデザインによる在校生の広報
 - ②3月 1年生施設実習後の進路アンケート実施
 - ③4月 2年生前期開始オリエンテーションでの専攻科のアナウンス
 - ④4月 2年生前期オリエンテーションアドバイザーによる専攻科チラシの案内
 - ⑤4月～5月 2年生授業内での児童福祉学科教員によるアナウンス（福祉系・保育系）
 - ⑥5月 進路アンケート実施
 - ⑦5月 キャリアデザインⅡでの卒業生専攻科広報
 - ⑧7月 2年キャリアデザイン チラシ配布 在校生と説明
 - ⑨7月～10月 専攻科説明会の実施
 - ⑩9月 後期開始オリエンテーションでのアナウンス
 - ⑪12月 キャリアデザインⅠでの専攻科生広報
5. 就業力支援
 - (1)かながわ高齢者福祉研究大会への参加（2026年は非開講）
 - (2)専攻科修了生による職場体験の発表
6. 地域貢献活動
 - (1)相模原市高齢者福祉協議会と共同し、介護福祉士資格取得のための支援
 - (2)青葉2丁目の町内会高齢者の方との世代間交流
7. 共同研究の検討

専攻科ヒューマンケア専攻 入試日程一覧

入試区分	選考日	出願期間	合格発表日	判定教授会
i 日程①	8/24(月)	7/31(金) ~8/20(木)	8/28(金)	8/26(水)
i 日程②	10/10(土)	9/30(水) ~10/7(水)	10/13(火)	10/12(月)
A 日程	12/12(土)	12/3(木) ~12/9(水)	12/17(木)	12/16(水)
B 日程	2027 1/16 (土)	2027 1/7 (木) ~1/13 (水)	2027 1/21 (木)	2027 1/20 (水)
C 日程	2/6 (土)	1/28 (木) ~2/3(水)	2/9(火)	2/8(月)
D 日程	2/27(土)	2/18 (木) ~2/24 (水)	3/4(木)	3/3(水)

4. キリスト教活動

1. 概要

建学の精神「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」に基づくキリスト教活動が教育の柱であることを、学生・教職員に働きかける。学生一人ひとりが聖書の教えを深く理解し、本学での学びを経て、神を畏れ敬う心と、隣人に仕える人格を有する保育・福祉実践者となることを目的として下記のキリスト教活動を展開していく。

2. 組織

宗教委員会は、チャプレン、教授会構成員の中から学長が指名した教員、庶務ユニットリーダー、同ユニット職員によって構成される。

3. 活動内容

3-1 年間聖句

本学を導いてくださる神様からの御言葉として下記の年間聖句を定める。

毎週のチャペルアワーのプログラムに掲載するほか、さまざまな場面で掲げ、学生及び教職員が常に心に留めて歩むようにする。

2026年度年間聖句「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」

(ルカによる福音書 6 章 31 節)

3-2 始業礼拝

神様によって、学びと学生生活がすべて守られるように、前期・後期の始業時に礼拝をおささげする。

3-3 チャペルアワー

一週間の学び始めの月曜日に、キリスト教活動の中心として、毎週月曜日 2 時限にチャペルアワーをおささげする。聖書の御言葉に聴き、説教者・奨励者を通して語られる神様からのメッセージを聴き、賛美と感謝と祈りを通し、一人ひとりが建学の精神の具現化、スクールモットー「愛と奉仕」の実践者とされていくことを目指す。

年間を通じて、より多くの学生の出席を求めていくため、いくつかの授業とも連携していく。

3-4 特別礼拝（下記の特別礼拝をおささげする。）

- 1) イースター礼拝（4月6日）
- 2) 創立記念礼拝（5月18日）
- 3) ペンテコステ礼拝（5月25日）
- 4) 召天者記念礼拝（10月19日）
- 5) 宗教改革記念礼拝（10月26日）
- 6) アドベント礼拝（11月30日・12月7日）
- 7) クリスマス礼拝（12月14日）
- 8) 卒業・修了感謝礼拝（3月8日）

3-5 新入生研修会

4月7日に新入生研修会を実施する。講演会（賛美とメッセージ）、及び宗教部オリエンテーションを通して、今後の学びの礎を培う。

3-6 クリスマスコンサート（子育て支援プログラム「はっぴい」と共催）

12月に午前中は子育て家族を対象としたはっぴいクリスマスコンサート、午後に地域住民を対象としたクリスマスコンサートを計画し実施する。

3-7 献金

チャペルアワーごとに、神様への感謝を表すために献金をおささげする。この献金は、神様への献身のしるしであることを認識したうえで、チャイルド・ファン・ジャパンのスポンサーシッププログラムへの参画と全国の児童福祉施設などへの支援に用いる。

3-8 和泉クリスチャン・フェローシップ (I. C. F.)

学生たちがキリストの教えに親しむことを目的として集う和泉クリスチャン・フェローシップの活動を適宜行う。

3-9 和泉聖書クラブ (I. B. C)

学生たちが主体となり、聖書に親しむことを目的として集う、和泉聖書クラブの活動をサポートする。

3-10 学生聖歌隊

賛美歌、子ども賛美歌、宗教曲の合唱練習活動を通じ、仲間とともにキリスト教音楽に親しみ、チャペルアワー、特別礼拝における奉仕のための練習を中心に活動する。チャペルアワー、特別礼拝、学内諸行事にて賛美奉仕する。

3-11 ハンドベルクワイア

選択科目である「ハンドベルⅠ」「ハンドベルⅡ」「ハンドベルⅢ」「ハンドベルⅣ」と連携し、科目担当者・履修学生によって、クリスマス礼拝などで賛美奉仕する。

3-12 教会紹介

掲示などを通して、本学近隣の教会について周知する。また、学生の教会出席を奨励するため、「キリスト教概論」、「キリスト教保育」、「キリスト教倫理」、「キリスト教社会倫理」の授業と連携する。

3-13 『教えとともに チャペルメッセージ集』の刊行

チャペルアワーで語られた説教・奨励の要旨を収録したチャペルメッセージ集を隔年で刊行している。2026年度刊行予定。

4. 2026年度の重点課題

4-1 「チャペルアワーを中心に捉えたキリスト教活動」

- ・「学生に、今届く言葉を伝えるチャペルアワー」とするため、説教者・奨励者には、その旨を予め伝えて依頼する。
- ・教職員に学生の中に入ってもらい、誠実に礼拝をおささげしている姿を学生に見せる。
- ・これまで同様、授業との連動を図りつつも、授業の課題と絡まないチャペルアワーへの主体的出席＝「チャペルアワーは出席するもの」という雰囲気を一層醸成する。
- ・キリスト教会との連携のもとにキリスト教学校が営まれていることをふまえ、近隣教会の牧師に説教奉仕を積極的に依頼する。

4-2 「建学の精神を支えるキリスト教信仰への理解を深められる活動を展開する」

- ・建学の精神に基づくキリスト教活動が教育の柱であることを、学生・教職員に伝え働きかける。
- ・教職員が建学の精神への理解を深めることができるよう教職員修養会を開催する。

4-3 「キリスト教活動への学生の主体的参画の機運を醸成する」

- ・学生のチャペル委員の担当役割を引き続き明確化するとともに、チャペルアワーの受付のみならず、個々に得意なことを生かして能動的に携われるよう促していく。
- ・I. C. F (和泉クリスチャンフェローシップ) などの活動を充実させ、その中からキリスト教活動への学生の主体的参画の具体を模索していく。キリスト教活動が教育の柱であるとの認識を全学で共有する。

5. 研究活動

大 下 聖 治 学長

【研究課題】

1. 運動技術の方法的運動系列に関する検討(継続)
2. 身体運動・表現遊びと安全対策に関する研究(継続)

【教育課題】

1. 「愛と奉仕」の精神を持った保育・福祉従事者の養成
2. 社会人として、また保育者として大切な心的態度やマナーの養成

【学会参加予定】

1. 日本体育・スポーツ・健康学会
2. 日本体力医学会
3. 日本保育学会

【社会的活動】

1. 神奈川県私立短期大学協会 監事
2. 神奈川県私立学校教育振興会 監事

佐 藤 守 男 特任教授

【研究課題】

1. 彫刻等の表現（形・素材）の可能性について
2. 日本や欧米の美術館・画廊の調査研究

【教育課題】

1. 造形表現の教材研究

【学会参加予定】

個展、グループ展、日本美術家連盟 他

【社会的活動】

1. 日本キリスト教文化協会 理事

山 本 美 貴 子 教授

【研究課題】

1. 「創造的表現活動」を主軸にする担当授業「保育内容表現」「保育の総合的指導法 音楽表現」は、2024年度以降、前島麻衣専任講師担当授業「こどもと音楽」と共に授業内容研究（教職研究等に掲載）に基づき、保育者養成校における乳幼児を対象として表現教育に資する教育内容の提言を目指す。
2. 子どもと学生や保育者が、声・音・言葉・動き・表情などにより音楽的にコミュニケーションする事例の観察研究を目指し、適切な時期に機会を探したい。

【教育課題】

1. 前期「保育内容表現」は主に理論と表現全体に関する学び、後期「保育の総合的指導法 音楽表現」はより音楽に特化した専門的・実践的保育方法の学びへとステップアップする学修内容を1年間を通して実施した。2023年度～本学1年次科目「子どもと音楽」（前島麻衣専任講師担当）と「音楽表現」のコラボ方法を共同研究し教職研究で発表したが、2026年度も引き続き連携内容を具体化した授業計画を検討する。歌う・奏でる・創る・繋がるを柱に、子どもの主体的な表現・音楽あそび・活動に関わる保育実践力を養う、本学ならではの学修プラン・モデルを構築を目指す。
2. 近年の日本の乳幼児の音楽教育全体の課題である「音楽を創る」をテーマに、保育者・支援者となる学生が主体的に学ぶ創造的な表現活動（音楽や表現を創る活動）を主軸に、個性を生かした協

働的、創造的、想像的な授業実践を目指す。ICT、ポートフォリオなどの積極的活用により学生の学修段階・学修成果の可視化を試みる。

3. コロナ禍を経て対面での授業回数が通常に戻ったので、学生の創作うた遊びの楽譜作成課題を復活した。楽譜作成は個々のレベルに差異が大きいため、授業内での個別指導の充実と共に、先輩学生の楽譜の参考資料としての活用などを工夫し、より良い授業実践を目指す。
4. 教務委員会4年目は委員会・教育学習支援ユニットの業務について理解を深め、新しい教育内容などのブラッシュアップ、各メンバーの担当業務の効率的な実施に見通しを立てて取り組む。
5. 2024年度版より、学生のみならず保証人も対象として、本学の教育の特色・内容、単位・資格取得のためのルールの理解、主体的な学習計画のためのスケジュール管理など、学生の身近なツールとしての「学びのハンドブック」の役割を重視した内容・掲載方法・掲載順・利便性を高めるレイアウトなどの変更を実施し成果を確認した。引き続き最新の情報を盛り込み、サブガイドの充実などにより利用者が使いやすく且つ和泉の教育の魅力を伝える紙面づくりを目指す。
6. 「入学前教育の充実」について、過去数年間の「主体的な学習意欲の錬成を目的」に「大学での学びに備える基礎学習プログラム・各種ガイダンスの充実」の成果を得られていた。2023年度からの新プログラム「4月からの授業が楽しみになる体験－学生間コミュニケーションを引き出すゲーム、不安解消のための短大生活体験ツアー、サークル見学会など」を実施している。数年間の新入生の離学率改善の成果を踏まえ、引き続き省察と改善を実施する。
7. きたる課程認定などに向けて、新学長のリーダーシップの下、本学独自の教育プログラムの展開を図る。具体的には、近年の改善による成果を踏まえ、よりいっそうカリキュラムの改善に努め、特に各教員の専門性を生かせる授業展開、卒業必修である授業「キャリアデザイン」カリキュラム改訂、ICT活用による授業内容の充実と学生負担感の軽減などを図る。2023年度からのリカレント教育プログラム（夏期現任研修・公開講座）開講により本学ならではの専門職養成・現職教育を実施している。さらに入学前教育から大学授業と実習、地域・社会の保育・福祉に貢献する専門職対象のリカレント教育へと繋がる、本学の特色を生かした教育の展開・実現を目指す。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 保育教諭養成課程研究会
4. 日本音楽教育学会

松 浦 浩 樹 教授

【研究活動】

1. 「子どもの遊びの充実と拠点の必要性について」（その3）
継続研究として、テーマ設定の変更：「子どもの遊びの充実と中心性（拠点）について」（その3）
関連研究として、「子どもの遊びの充実と秩序感の生成過程について」「幼児期の遊びと学びの相関関係－アクティブラーニング時代の幼児教育の意味」
2. 幼児期における両義的認識の発達過程について
3. キリスト教保育の現状と課題 202年アンケート調査とその解析
「キリスト教保育連盟約800施設への設置者向けアンケート、また約14,000名の保育者向けのアンケートを実施し、その集計と解析（解釈）」を記す
キリスト教保育連盟・研究委員会委員長
4. 家庭生活・文化の変遷と保育における遊びの必然性とその質の研究
5. 保育現場の事例研究の方法と子ども理解の循環的理解過程の研究（～随時継続）
6. 子育て支援における地域貢献の意味とその質に関する研究（～2012年まで）
7. 境界性喪失と保育者養成・新任教育の課題（～2015）、保育就業力育成プログラムの現状と課題

8. 「学び」の脱学校化と文化的創造への課題(テーマ「施設化する生」の継続的研究)
9. 「大学講義科目におけるアクティブラーニングの可能性—保育原理・教育原理における実践と省察—
上記テーマに基づき、協力園(幼稚園・保育園)での観察データ、映像記録、園内研究での貢献を軸に、保育実践に寄与する研究を目指す。またテーマ6、7に関して、学内で関与する学生、保護者(親子)との実際的なかかわりの中から、現状と課題を明らかにする。
10. 教育目的の潜在性と出会いとしての真実の探求(キリスト教教育)
11. 保育者養成を軸にした地域連携支援の在り方と保育学生の育ちの探求

【教育課題】

1. 短大における学び・保育者への学びについての態度変容について、新入生に対して「保育原理」・2年生に対して「教育原理」の授業の中で、主にアクティブラーニングを通じて実践していくこと。さらに、今年度は保育就業力を育成するために、保育現場のニーズに相關させるプログラムの開発と工夫に努力する。
2. 上記の取り組みを通じて、教育・保育の目的論(潜在性と教育的配慮の真実性)を明確に学ばせる。
3. 「保育原理」、「教育原理」の授業内容の充実にあたり、上記の研究における実際的なデータ(事例・ビデオ)を収集すると共に、これらを学生に還元し、人間現象を考察する力・人間教育としての保育への理解を促進する。
4. 保育者養成校としての短期大学における学びの協同性の機会を構築し、学年・クラス・グループの枠を超えた対話的学習を促していく。
5. 実務経験を生かした授業内容の構成、特に「保育内容・人間関係」における実践的考察を通じ、自らの生き方、保育者としての生き方を探求する。
6. 地域連携のプログラムを企画するにあたり、学生の主体的参加と大学間学生交流を促進し、社会的マネジメントとコンプライアンスの基盤を学ぶ環境を創造する。

【参加予定学会等】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 日本キリスト教教育学会
4. 子どもと保育総合研究所・所員研究会
5. OMEP(世界幼児教育機構)日本委員会 国際共同研究
6. キリスト教保育実践研究会
7. キリスト教保育連盟 カリキュラム委員会
8. キリスト教保育連盟 保育実践研究委員会・委員長
9. 保育教諭養成課程研究会(文科省重点課程研究)
10. 全国保育士養成協議会
11. 日本キリスト教教育学会 監事(2024年6月から)

【地域貢献】

1. キリスト教保育連盟・部会保育者研修会・講師
2. 幼稚園協会 園内研究の継続的な観察と研究指導
3. 相模原市保育士会所属保育園の継続的保育観察と研究指導
4. 学校法人雲柱社松沢幼稚園：評議員
5. 学校法人宮の台幼稚園：理事
6. 学校法人愛育学園愛育養護学校(特別支援学校)：評議員
7. 学校法人椿学園でんえん幼稚園：理事
8. 学校法人相愛学園武蔵野相愛幼稚園：評議員
9. 社会福祉法人御殿場コロニー野菊寮：監事

10. 社会福祉法人横浜 YMCA 福社会：評議員
11. 座間市立保育所民間移管選定委員会：委員長
12. 相模原市立図書館連絡委員会：委員

【その他委員会等】

1. 2026 年度も前年度に引き続き、地域連携推進センター長・図書館長を担う。まずは現行の子育て支援の在り方を抜本的に捉え直し、子どもと母親を支援の中心におきつつ、(被支援ではなく支援者として) 小学生から高齢者を巻き込んだ新たな支援活動を工夫することで、子育て支援を軸にした総合的地域連携支援を具現化し、革新的な地域連携・支援を社会に提示することで地域の活性化と本学のアドミッションの充実した遂行をしたい。またこれらの活動を通じて、保育のみではなく介護職への関心を学生に促していく。
2. さがまち地域教育連携プラットフォームの一つである「地域交流イベント実行委員会」を本委員会が担う。かねてから案があった「たまご街道」(麻溝畜産会) とのコラボレーションを中心に、他のプラットフォーム大学の協賛を募り、産業界・相模原市役所・商工会議所との連携を図りながら、地域振興に寄与する。
3. 図書館の利用率が低いことは全国的な傾向。オープン・ライブラリーの構想を図り、単に「本を読む・借りる、自習する」空間イメージを超越した学生と地域の開かれた親しい・利用したくなる空間イメージが定着するような工夫を提案する。
4. また、2026 年度での大きな取り組みは、キリスト教保育連盟・研究委員会委員長として、『キリスト教保育の現状と課題 202 年アンケート調査』をキリスト教保育連盟全国約 800 施設に対して行う。現在は、そのアンケートの設問のヒヤリング集計等を行っているが、2026 年 7 月までに、設置者・保育者各々に実施し、その後、集計・解析を行い、保育の実際とその課題を探り、報告書を作成し、全国、そして文部科学省に還元すると共にキリスト教保育を研究する者への基礎データとして公表する。

横 川 剛 毅 教授

【研究課題】

1. 口述筆記による、優れた保育、福祉実践者についての研究

【教育課題】

1. より深い配慮が必要な人に寄り添うことができる保育者・支援者の養成
2. 保護者も含め信頼関係を築ける保育者・支援者養成

【学会参加予定】

1. 日本キリスト教社会福祉学会
2. 日本オーラルヒストリー学会

松 山 洋 平 教授

【研究課題】

1. 乳幼児期の子どもたちの環境とのかかわりの重要性・可能性
2. 保育園園長のまなざしの変容に関する研究
3. 幼稚園等が行ういわゆる預かり保育に関する研究
4. 保育者の子どもを理解することの深化についての研究

【教育課題】

1. 担当科目「保育内容・環境(指導法)」における、さらなる A L の開発と内容の充実
2. 担当科目との連携による実習教育さらなる充実を目指した取り組み
3. 実習と実習指導やその他の教科との関連性と質の向上を支える取り組み

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. こども環境学会
4. 日本乳幼児教育・保育者養成学会

【社会的活動】

1. 子どもと保育総合研究所所員（研究大会・セミナーなどの企画・運営・講師）
2. 川崎市認可保育所（株）ぶどうの実系列園 要望等解決審査委員（第三者委員）
3. 「公開保育を通して幼児教育・保育の質の向上」講師（神奈川県私立幼稚園連合会 A部会）
4. 保育士等キャリアアップ研修講師（国立市・横浜市・相模原市）
5. 年間研修講師（神奈川県私立幼稚園連合会相和地区）
6. 預かり保育担当者研修講師（横浜市幼稚園協会・相模原市幼稚園・認定こども園協会）
7. 足立区ゼミ研修講師

矢野 由佳子 教授

【研究課題】

1. 保育者のメンタルヘルスと職場風土に関する調査研究
2. 乳幼児の発達と心理臨床の実践

【教育課題】

1. 子どもや保護者の心に深い理解を持ち、カウンセリングマインドをもって接する保育者の育成
2. 心身の健康管理に留意できる保育者の育成

【学会参加予定】

日本発達心理学会 日本心理臨床学会 他

今村 愛喜 助教・チャプレン

【研究課題】

1. キリスト教に関する研究、特に終末論
2. キリスト教学校における伝道に関する研究
2. キリスト教倫理に関する研究、特に死生学およびスピリチュアルケア

【教育課題】

1. チャペルアワーにおいて、イエス・キリストの福音を正しく伝え、建学の精神であるキリスト教信仰を指し示すことにより、学生が本学での学びの基盤を形成できるように努める。
2. キリスト教科目の授業において聖書の福音、建学の精神を学ぶことを通して、学生がキリスト教信仰に対して主体的に向き合い、学生の将来の働きや具体的な状況においてキリスト教精神が生かされ、また、学生の将来の心とたましいの支えとなるよう伝道を課題とする。同時に学生が神から与えられた賜物に気づくように促し、保育・福祉の良き担い手として養成する。
3. 学生が自主的にキリスト教活動に関われるように導く。

【学会参加予定】

1. キリスト教学会
2. キリスト教教育学会
3. 日本パストラルケア・カウンセリング協会所属

【社会的活動】

1. 日本基督教団教務教師

中 安 恆 太 教授

【研究課題】

近年、日本においては家庭養護（里親やファミリーホーム等）の促進が図られているが、家庭養護に位置付けられているファミリーホームは、第2種社会福祉事業のため、児童養護施設等の法人が運営することも可能であることから、ファミリーホームは施設なのか里親なのかという混乱が生じている。これまで、ファミリーホームを家庭養護として位置付ける矛盾を明らかにするために、ファミリーホームが国の制度として成立する背景を厚生労働省等の資料から整理した。（2022年度、2023年度本学紀要投稿）。そして、家庭養護と位置付けることに矛盾がある中、養育者が考えるファミリーホーム養育の意義と課題を整理した（2022年度子ども家庭福祉学投稿）そして、抽出した課題への対処について整理してきた（2025年度子ども家庭福祉学会発表）。これまでの調査は、ファミリーホームを夫婦で営む養育者（個人型）を対象に行ってきたが、今年度は児童養護施設等が運営する法人型のファミリーホームを対象に調査を行い、既に調査済の個人型の養育者との比較を明らかにしたいと考えている。

【教育課題】

担当科目では、学生が施設実習や現場実践に役立てる知識・技術・倫理が得られよう分かりやすい授業を展開する。具体的には、テキストに書かれている内容を落とし込むための資料提供やDVD視聴、グループワーク等を行う。また、児童虐待やヤングケアラー等、子どもやその家庭を取り巻く環境が複雑化しているため、保育者として必要な支援のあり方を探求する視点を養う。

【社会的活動】

1. 一般社団法人全国保育士養成協議会 保育士試験委員会 委員
2. 日本子ども家庭福祉学会 査読委員
3. 相模原市子どもの権利相談室 代表救済委員
4. 相模原市社会福祉審議会 委員
5. 相模原市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 分科会長
6. 相模原市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 児童部会 部会長
7. 相模原市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 児童虐待検証部会 委員
8. 森の保育園 第三者委員
9. 社会福祉法人グリーン 選任解任委員
10. 社会福祉法人ル・プリ 選任解任委員
11. 東京都養育家庭の会みどり支部イベント運営

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会
2. 日本子ども家庭福祉学会
3. 日本子ども虐待防止学会
4. 子どもアドボカシー学会
5. 養子と里親を考える会

中 野 陽 子 准教授

【研究課題】

1. 知的障害者の支援をするソーシャルワーカーの専門性に関する研究
2. 障害者の権利擁護に関する研究

【教育課題】

1. 人権を護り、多様性を尊重し、共生社会の実現ができる保育者の養成
2. 特別な配慮が必要な子どもの支援ができる保育者の養成
3. 障害者施設における支援の魅力を伝え、就職先の選択肢の一つになるようにしていく

4. 社会福祉士や特別支援学校教諭免許状取得に向けた編入学を推奨していく

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会
2. 日本発達障害学会
3. 日本保育学会
4. 保養協セミナー
5. 日本オーラルヒストリー学会

【社会的活動】

1. 県立さがみ緑風園第三者委員
2. 相模原市市民オンブズマン
3. 相模原市指定管理者選考委員会委員長
4. 相模原市障害者施策推進協議会公募選考委員

久 保 小枝子 准教授

【研究課題】

1. 児童文化財（絵本やおもちゃ）が乳幼児の発達に与える影響を研究
2. 青年期における宗教心の芽生えとその育成を調査・研究
3. 保育実習、教育実習の学生への支援のあり方についての研究
4. 幼稚園教諭、保育士の育成の研究－保育の質の向上を目指す－

【教育課題】

1. さまざまな授業を通して、基礎学力が身につくように指導する。
2. 学生が保育職への意識を高め、主体的に学ぶための教育方法を探る。
3. 「保育内容の総合的指導法 言葉」「保育内容総論」「キリスト教保育」「保育・教職実践演習」の講義や演習を充実させるために、学生が保育現場の具体的な事例から学べるように工夫する。理論と実践の統合を目指す講義、演習を行えるように努める。
4. 学生の学習環境についてアンケートや聞き取りを行い、より質の高い充実した環境整備を学生と共に探る。
5. 学生が委員会活動などを通して学生主体で企画、運営する機会を設け、必要な支援をしながら、協同性を育む。
6. 学生が自分の適正に合った保育、福祉の就職先を選択するための指導に力を注ぐ。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本キリスト教教育学会
3. 日本保育者養成教育学会
4. 子どものための芸術と遊びフォーラム

【社会的活動】

1. 大学・短期大学基準協会認証評価 評価員
2. キリスト教保育連盟『キリスト教保育』『実践からの学び』執筆
3. 相模原市保育士キャリアアップ研修講師
4. キリスト教保育連盟関東部会研修講師
5. こひつじ文庫アドバイザー
6. こひつじ文庫コラム「読み聞かせのまえに」執筆
7. 芸術と遊び創造協会「グット・トイ」選考委員

【研究課題】

1. 医療的ケア児に対する支援に関する研究：社会的背景と先行研究の体系化

[研究の背景と必要性]

近年の医療技術の進展に伴い、在宅で生活する医療的ケア児の数は増加の一途をたどっている。厚生労働省の推計によれば、医療的ケア児（在宅）は過去10年間で約2倍に増加し、現在では約2万人に達するとされている。この社会的状況を受け、2021年9月には「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行され、医療的ケア児への包括的な支援体制の構築が喫緊の課題となっている。

[研究目的]

本研究は、上記の社会的・法的な背景を踏まえ、医療的ケア児の保育・教育における支援のあり方を学術的に探究することを目的とする。

[研究内容]

まず、国内外の先行研究を包括的にレビューし、医療的ケア児に関する研究動向の広がり、範囲、性質を体系的に整理する。これにより、今後の研究が貢献すべき未開拓の領域を特定し、実効性のある支援モデル構築のための基礎的知見を確立する。

2. 乳児の主体性を支える保育者「子ども理解」と実践に関する研究

[研究の背景と必要性]

乳児保育に関する研究は着実に蓄積されているものの、乳児の主体性の尊重と、それを可能にする保育者の具体的な認識・介入プロセスに着目した質的研究の深化が求められている。特に、保育者の「まなざし」（子どもの表出に対する意味づけ、解釈、評価の枠組み）が、乳児の自発的な活動をどのように促し、あるいは阻害しているのかという視点は重要である。

[研究目的]

本研究は、保育実践の場における保育者の子ども理解の質に焦点を当て、それが乳児の主体性を支援する保育実践にどのように結びついているのかを、質的・記述的に分析することを目的とする。

[研究内容]

具体的な保育場面の観察記録や保育者への半構造化面接を通して、乳児のわずかな非言語的サインを保育者がいかに意味づけ、応答し、その後の環境構成や関わりに活かしているのかを明らかにする。

3. 保育者の職能成長に関する発達段階別研究：意味づけの変容に着目して

[研究の背景と必要性]

保育の質の維持・向上には、保育者の継続的な職能成長（Professional Development）が不可欠である。しかし、単なるスキル習得だけでなく、保育実践における出来事や経験に対する「意味づけ」の変容という、内的な成長メカニズムに着目した研究は依然として不足している。

[研究目的]

本研究は、保育実践における経験に対する保育者の意味づけ（Sense-making）に焦点を当て、保育者養成校段階、新人保育者、ミドルリーダーといった各発達段階における成長の軌跡と質的变化を明らかにすることを目的とする。

[研究内容]

縦断的・横断的研究手法を組み合わせ、各段階の保育者・学生に対してライフヒストリー聴取、事例記述、省察レポート分析などを実施する。具体的には、危機的経験や成功体験が、専門職としてのアイデンティティや、子ども・保育者・同僚との関わりに対する信念・価値観をいかに変容させていくのかを追跡的に分析する。

【教育課題】

1. 学生の主体的な学びを促進する「子どもの保健」分野の授業研究

[研究の背景と必要性]

保育者養成における保健分野の科目は、学生が理論的知識を修得し、それを現場での具体的な援助に結びつけるための橋渡し役を担う必要がある。本研究は、学生が受動的な知識の受け手から能動的な学びの構築者へと変容するための授業設計と教材開発に関する実践的研究である。

[研究目的と内容]

(1) 「学びのノート」を用いた学生の認知プロセス分析

授業「子どもの保健」および「子どもの健康と安全」において導入している「学びのノート」(リフレクション・ジャーナル)の記述内容を分析し、学生の知識の統合、応用、省察のプロセスを検討する。これにより、学生の主体的な学習を支えるための課題提示やフィードバックの在り方を開発する。

(2) 食物アレルギーに関する実践的教育内容の検討

授業「子どもの健康と安全」における「食物アレルギーを持つ子どもの理解と援助」の単元に特化し、最新のガイドラインや保育現場での事例に基づいた授業内容の高度化を図る。特に、模擬的な危機管理ロールプレイを含む教材研究と実践を行い、学生の危機対応能力の育成に焦点を当てる。

【所属学会等】

1. 2008年4月～ 日本看護協会
2. 2008年11月～ 日本医療保育学会
3. 2011年4月～ 日本保育学会
4. 2012年7月～ 日本乳幼児教育学会
5. 2012年9月～ 日本発達心理学会
6. 2013年6月～ 日本小児保健協会
7. 2013年7月～ 日本保育保健協議会
8. 2016年9月～ 日本保育者養成教育学会
9. 2016年10月～ 保育教諭養成課程研究会
10. 2017年6月～ 日本学校保健学会
11. 2021年8月～ 日本乳幼児教育・保育者養成学会
12. 2022年6月～ 日本質的心理学会

吉田久仁子 准教授

【研究課題】

1. キリスト教保育の担い手としての理事会に関する研究
2. 3.11を通して、教会と教会幼稚園が果たした中間集団としての役割についての研究
3. 保育者の人間関係についての研究—子ども・保護者・保育者—
4. 厚生省事務官として玉川保育専門学院開設に関わり、後に和泉短期大学教授となった副島ハマと和泉短期大学創設時から保育原理を担当したドイツ人宣教師であるゲルトルート・エリザベート・キュックリヒ教授の保育思想と関係性が戦後日本の保育に与えた影響に関する研究
5. ホープツーリズム(南相馬スタディーツアー)が保育者養成に与える教育的価値に関する研究
6. 子育てひろばはっぴいのコロナ禍以降の新しい取り組みが保育者養成校の学生の学びと成長にどのような影響を与えているか

【教育課題】

1. 新設科目「災害と保育」において、東日本大震災・原発事故を経験した被災地の保育者から「保育者のあるべき姿」について学び共に考える。

2. 社会福祉法人ちいろば会（日本キリスト教団原町教会）と和泉短大、南相馬市との連携協働により地方と首都圏の人的交流と質の高い保育者人材育成に取り組む。具体的にはホープツーリズムでのアクティブラーニングと社会福祉法人ちいろば会保育施設でのインターンシップを継続する。
3. 保育現場の映像やエピソードを交えて、保育の理論と実践が結びつく講義を展開し、学生自身も保育を語れるように演習を積み重ねる努力をする。

【社会的活動】

1. 相模原市子ども・子育て会議会長
2. 相模原市キャリアアップ研修会講師
3. 川崎市キャリアアップ研修会講師
4. 相模原市光が丘地区まちづくり会議委員
5. 相模原市光が丘地区複合施設市民検討会委員
6. 社会福祉法人相模和泉福祉会 理事
7. 学校法人福音学園 理事
8. アカシヤ保育園（0～2歳児 小規模保育園）において月1回、乳児との礼拝、職員研修（キリスト教保育）を実施する。
9. 東日本大震災・原子力災害伝承館客員研究委員
10. 特定非営利法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク神奈川福祉サービス第三者評価委員

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本キリスト教教育学会
3. 東日本大震災・原子力災害学術研究集会
4. OMEP 日本委員会

星 早 織 専任講師

【研究課題】

1. 乳児保育の質の向上に関する研究
2. 保育者養成における学生の成長プロセスに関する研究
3. 子育て支援の充実に関する研究

【教育課題】

1. 担当教科において、教材及び保育現場での事例を通して学生が自ら考え、また他者と協力し知見を広げられるような演習授業を設定する。
2. 学生自身が保育を客観的に捉え、評価・反省ができる保育者となれるよう記録する力を身につけられるよう授業を構成する。
3. ICT化が進む保育現場の現状に合わせ、実践現場で生きるスキルを身につけられるような授業内容を目指す。
4. グループ担任として、学生が入学から卒業までの見通しを持ち、充実した学生生活が送れるようグループ運営に努める。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 日本保育者養成教育学会
4. 日本社会福祉学会

前 島 麻 衣 専任講師

【研究課題】

1. 保育現場での音・音楽のあり方について
保育現場の幼児の音楽表現について現場に足を運び、研究を深めていく
様々な幼稚園での実践を知り、幼児の音楽表現のあり方を考えていく
2. 幼児の音楽表現を支える保育者について
幼児の音楽表現を支える保育者に必要なことを考えていく
実習を経験した学生・保育現場の保育者と共に、幼児の音楽表現について考え、実践する上で必要なことを考えていく
3. 養成校で学ぶ学生の音楽経験について
学生の音楽歴や音楽に関する調査研究

【教育課題】

1. 「子どもと音楽」の授業内容と方法について
2. 学生の実習準備の支援方法について
3. 聖歌隊の取り組みについて
4. 本学における学生と共に行う子育て支援の取り組みについて

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 音楽教育学会

中 山 恭 一 助教

【研究課題】

1. 主体的・対話的な探求的学習が及ぼす教育的効果
2. ICT・プログラミング活用の教育手法の可能性
3. 幼少児への健康教育が及ぼす教育的効果
4. 分かりやすく、現場で役立つ実践的授業研究
5. 「運動遊び」「体育・スポーツ」がもたらす子ども達への発育発達支援に関する研究（配慮の必要な子ども達を含む）

【教育課題】

1. 教職員と連携しながらの学生サポート（学生の能力開発と心身のケア）
2. 和泉短期大学での学生生活が安心・安全に過ごせる第3の居場所になる可能性
3. PFを利用した体育・スポーツでの地域貢献
4. 健全な心身を併せ持つ人材育成
5. 生涯スポーツへの円滑な移行

【学会参加予定】

1. 日本体育・スポーツ・健康学会
2. 日本体育学会
3. 子どもとからだと心・連絡会議
4. 日本発育発達学会
5. 日本幼少児健康教育学会
6. 日本学校保健学会
7. 日本教育工学会

杉田美香 特任助教

【研究課題】

1. 保育者を目指す学生の、実習期間に担当する責任実習と心情の関わりについて
2. 大正～昭和初期の幼稚園教育とそれに関わった人々について―当時の園舎の形状から手がかりを得る―
3. 保育者・子育て支援者のアイデンティティについて

【教育課題】

1. 保育実習・教育実習指導においては、多様性を認める社会、組織となった現状に合わせて、学生について本人ならではの学びができるように、実習期間のみならず、実習前後の取り組みについて、特に配慮や援助が必要な学生には最新の注意を払い、これを実行する。
2. 「保育者」とはなにか、我が国における幼児教育、保育の歴史的背景、その社会的役割や子どもに対する理解について学び、現代を生きる保育者になるためにはどうすればいいのかを自ら求め、考えられるようにする。

【学会参加予定】

1. 日本発達心理学会
2. 日本保育学会
3. こども環境学会
4. 日本数学教育学会
5. TEM と質的探究学会
6. 子どもと保育総合研究所

専攻科ヒューマンケア専攻

佐藤美紀 准教授

【研究活動】

1. 「実習の振り返り」における学生の不安についての分析とその支援法
2. 「専攻科のまなび」が保育系に就職した卒業生に活かされている点とは

【学会参加予定】

1. 日本介護福祉学会
2. 認知症ケア学会

佐久間 志保子 特任教授

【研究活動】

1. 障害者支援施設における対象者のアセスメントの導入のあり方
2. 高齢者施設における感染症対策

【学会参加予定】

1. 日本介護福祉教育学会
2. 日本認知症ケア学会

中野 志津江 特任助教

【研究課題】

1. 実習Ⅰ・Ⅱについて、記録用紙の変更（振り返りシート）を使用して実習評価へどう活用したのかの研究
2. 保育や福祉を学習している学生を対象として死生観についての研究

【教育課題】

1. 介護職と医療職との連携の必要性を理解できるように医療的ケアを安全に適切に行う為の知識と技能の習得に向け、学生間で学び合い、覚え合えるような授業の工夫を図る。
2. ライフサイクル各期の身体、心理、社会的特徴を踏まえた上で、発達と老化に伴う変化と高齢者に多い疾病や障害について解りやすく図や、写真などを使用してイメージしやすくし、理解できるよう工夫する。また、日常生活への影響について学生に問いかけや投げかけをし、考える授業を行う。
3. 人体の構造や機能、こころやからだのしくみなど基礎的な知識を繰り返し復習し、加齢による身体機能や心理的、精神的機能の低下及び障害が、日常生活動作や暮らし方にどのように影響するのかを考え、援助に結びつけて理解できるよう授業の工夫を図る。
4. 終末期や死後の身体的変化を理解できるように事例の動画を視聴し、理解を深める。死にゆく人とその家族に対して死の受容過程を学び、様々な死生観を通して、支援のあり方やグリーフケアについて考える。また、実習で出会った終末期の高齢者の方々と体験を共有し、対象の尊厳を尊重する態度やケアを自ら気づけるよう努める。
5. 介護総合演習Ⅱにおいて学生が目線に立ち、不安や困りごとを表現できるように受け止め、学生がより質の高い充実した実習にするため、コミュニケーションを十分にとり準備を行う。また、学生の不安の軽減に努め、実習目標の到達に向けて主体的に学べるよう指導者との実習環境の調整に努め、学生の課題について共に考え、支援する。

【学会参加予定】

1. 日本リハビリテーション看護学会
2. 日本看護学会
3. 日本臨床死生学会
4. 日本介護福祉教育学会
5. 東京大学人文社会系研究科 死生学・応用心理センター上廣講座《医療・介護従事者のための死生学》参加登録

【社会的活動】

1. 学校法人 鶴嶺学園 評議員
2. 相模原市高齢者福祉施設協議会 介護福祉士国家試験受験直前対策 講師

6. 委員会活動

教務委員会（教務部長 山本 美貴子）

教務委員会は、教務委員会規則により（1）教育課程に関する事項、（2）試験に関する事項、（3）学籍の異動に関する事項、（4）その他、教務に関することを所掌事項とし、次の項目にそって計画・運営を行う。

1. 教育の内容
2. 教育の環境整備
3. 教育目標の達成度と教育効果
4. 多様な学生の学修支援
5. 卒業生への再教育支援
6. 教員の交流と研究活動の支援
7. 保護者(保証人)との連携
8. 各種の連携
9. 教育情報の公開
10. 特色ある教育の取組（独自資格・新設科目など）
11. 再課程認定の準備（全回 2019 年度実施）

各項目の 2026 年度計画について以下に具体的な取組について重点課題を中心に記載する。これらの計画は関係する他の委員会等との十分な調整等を行い最善の方法を模索して実施する。

なお COVID-19 に関わる特別対応の終了後について、引き続き「学校感染症」に関わる新法などを注視し、適宜、基本的な感染対策を呼び掛けるなど、安心・安全な教育環境の整備にあたる。

1. 教育の内容

(1) 教育課程について

- ・最新の本学教育内容に照らし、最新の 3 つのポリシー・「5 つのコンピテンシー（ディプロマサブリー）」「和泉の 10 の力」に応じたカリキュラムツリー（専門科目系統ナンバリング）とルーブリック（学習到達度指標・アセスメントプラン）等の更新を心掛ける。

(2) 幼稚園教諭免許・保育士資格取得の支援・キャリア教育の充実

- ・キャリア教育の推進（キャリアデザインセンター、ポートフォリオ、保育・福祉専門職のキャリア教育のあり方の検討 等、「学生委員会」「学びのマネージメントWG」との協働）
- ・各種実践体験による教育内容の充実（インターンシップ①幼稚園保育体験、インターンシップ②保育園（ふれあい体験）、インターンシップ③福祉施設、はっぴい・すまいりいスタッフ、各種ボランティア体験、新科目「災害と保育」等）
- ・保育実習指導者研修への参入（全国保育士養成協議会、横浜市、相模原市保育課）

(3) 多様な学生の主体的な学び・活動の支援

- ・多様な学生へのサポート体制における学修支援

近年全学的に多様な学生の学修活動・学生生活を支援する体制が新しく整えられている。

（障がいのある学生等修学支援・スクールソーシャルワーカー制度の新設・入学前アンケートの早期実施・通称名利用規程の改訂・長期履修制度など）さらに多様な学生の主体的な学び・活動を支援する教育的な役割を果たせるように、個々の支援プログラムの有効な運用について、様々な委員会・WG と連携・協働して取り組む。

- ・学生の時間割の空きコマ・自由な時間の確保を目的として 2023 年度から 2025 年度までに授業クラス 4 クラス化、一学年 8 グループ編成とした。さらに 2026 年度新定員に適した教育的にふさわしい編成を再検討、2026 年度から授業クラスの 3 クラス編成（一部の講義系 2 編成）とし、2026 年度生から順次 7 グループ化とする。

学生の時間割にゆとりが生まれる結果効果を生かす円滑な運用、教育内容の充実について引き続き注視、学生が各自の必要に応じて各所に相談・支援を求める際の利便性の向上、多様な背景により学びや手続きに時間を要する学生の生活にゆとりが得られるような配慮、さまざまな委員会・WG との連携により、学年・グループ・授業クラスの枠組みを超えた主体的で魅力的な課外活動・教育プログラム・地域連携プログラムなどの充実を図る。

(4) 特色ある教育・授業の充実

- ・2024年度よりスタートした本学独自の授業(資格)「こども支援ソーシャルワーク」の授業計画・実施を支援し、本学の特色ある教育としてより充実することを目指す。
- ・2023年度2024年度特別教育プログラム「南相馬スタディーツアー」による高い教育的効果を経て、2025年度より授業化された新規科目「災害と保育」について、引き続き本学の特色ある教育・授業として豊かな学びが得てさらに発展するよう、フィールドワークの安心・安全な運用を含め支援する。
- ・2026年度新規科目「ダンス」(1年生後期 選択科目)について、本学の特色ある教育・授業としてさらに発展することを目的に支援する。
- ・専攻科の特色ある学びの質を確保しつつ、学生の負担感の軽減を図ることを目的に教育内容を精査し検討する(多様な資格取得についてなど)

(5) 教務に関わるFD・SDの充実

- ・自己点検・評価報告書の作成(「自己点検・評価委員会」との協働)
- ・学生による授業評価の改善及び公表のあり方の検討(ICT教育内容との連携を含む)
- ・教員懇談会・教職員懇談会の開催
- ・全教員参加のFD研修会開催:2025年度から継続・発展的に大学教育における多様な学生を対象とする教育方法(ハラスメント・合理的配慮などを含)の最新情報の共有を計画

(6) 教育充実のための各種委員会との連携

- ・学びの組織的支援充実、実態に即した業務内容の検討・実施のための構造整備(教務委員会サブ組織等の整備と確認)
- ・IR委員会、学びのマネージメントWG、ウェルビーインググループWG、実習サポート委員会、学生委員会等との連携により、ICT化に伴う学生の教育・情報・支援に関わる全ての業務の一本化・情報共有や対応の効率化を実現し組織的総合的なサポートが可能な体制を構築を目指す。WGなどでのこれまでの検討により、教育上の有効性が認められた新システム「MOODLE」の導入について検討を進める。
- ・保育・幼児教育関係・保育士養成課程/幼稚園教諭養成課程の動向にかかわる情報の収集と必要な対応の検討・実施。
- ・離学者改善検討委員会との協働により学生の就学意欲の強化を目指す。(3.(4)項参照)
- ・2026年12月25日施行される「こども性暴力防止法」に関わり、本学の養成教育の基本理念・教育の質を護りつつ、実習先および卒業生の進路先の子どもの権利を守る保育実践に資する教育内容を諮る。さらに実習サポート委員会・学生委員会と連携して、本学学生を対象とした「学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律(令和6年法律第69号)第2条第8項に規定する特定性犯罪事実該当者の確認」の確実な運用に務める。

(7) シラバス作成管理(シラバス作成要綱)及び教育内容の点検

- ・ループリックに沿ったシラバス作成要綱の更新と運用
- ・アクティブ・ラーニングの実際、課題内容の共有・調整等を図る。
本学の特色ある教育:1時限105分授業/前期・後期、各期13週のシステムが、アクティブラーニング(能動的学習・課題解決型学習(PBL))等促進や往還型学習の促進に有効活用されているか検討する。
- ・学生の権利を護り、平等な学修機会を保証する単位認定方法(定期試験・試験・発表・授業内課題・討議等)について検討し、大学全体で共通の認識を得る。

(8) 入学前教育から1年次教育への学びの繋がり構築

- ・「保育者を目指す学びへの支援」に関するカリキュラムの検討
- ・特に、通学動機・学習意欲の活性化に効果的・魅力的な「入学前教育から各期オリエンテーション・キャリアデザインI・II、実習指導授業・インターンシップ・教材「学びのハンドブック」の

有機的な連動、プログラムや学習内容の「つながり」に注目し、検討する。

- ・2024年度より実施した「大学での学習の目的・方法を知る」「進学・学びの始まりを楽しみにする入学前教育の新しいプログラム：12月プレ入学前プログラム・1月第1回～3月第3回の内容の充実を図る。
- ・学生の大学での学習内容等の理解を深める役割の強化・利便性の向上・積極的な活用を目的に再編・改訂した「学びのハンドブック」「サブガイド」について、学生指導・保証人との連携において一定の効果が認められたので、さらに改善内容を検討する。

2. 教育の環境整備

(1) 全体的な教育環境の整備・改善

- ・2025年度に引き続き、教室備品・消耗品の充実を図り、全教室のIT教育環境の格差是正による利便性の向上を目指す。

(2) 教育用機器備品の整備

- ・2025年度より3ヵ年計画で取り組んでいるIT教育環境の整備について、1号館101、104、200教室、4号館A-1、A-2教室などの環境整備（特に1号館200教室にはスクリーン、プロジェクター、スピーカー等の新設も併せて行う）を活用したICT教育・各授業内容・学生活動の充実を図る。

(3) 定員変更に伴い、現在の学生数・授業内容にふさわしい教育環境の整備について、授業3クラス化（講義系2クラス化）による同時間に使用する教室数の減少、今後の学内の工事などの影響も含めて検討し、計画的な実施を目指す。具体的には、アクティブラーニング実施のための机・椅子レイアウト変更可能な教室数の確保、クラーク・ホール代替教室などについて対策を要する。

3. 教育目標の達成度と教育効果

(1) 授業評価方法について

- ・現状の教育内容に照らした、学修到達度・ルーブリック、学修到達度調査・アセスメントの妥当性の検証
- ・全教員打ち合わせ会における懇談会などの機会を有効に活用し、ルーブリック・シラバスに即し、アクティブラーニング等多様な学習に有効な成績評価方法について、最新情報の共有などの改善を図る。
- ・学修成果（成績評価）結果の学生本人へのフィードバック、自主的な学修評価に関する検討

(2) 学生ニーズを知るためのアンケートの有効活用

- ・過去の卒業時アンケート実施状況の分析により、より有効な回答を得るために2024年度は証書授与式当日のグループミーティングでの実施に変更、さらに充実した実施を目指し、和泉の10の力を指標にしながら、卒業後アンケートを担当する学生委員会と連携を図りアンケート項目を検討する。
- ・多様な学生（職業訓練委託生・社会人学生等）が大学教育に求める内容や学びづらさ等を丁寧に聴き取り向き合う。

(3) 教育効果等の把握のためのルーブリック・学習到達度調査（アセスメントテスト）・学習成果（教育効果）可視化の取組

- ・学習成果の可視化（ICT化）について、2025年度検討結果に基づき、より有効なシステムMOODLE導入準備を実施する。学生が理解しやすい可視化のあり方・各科目の授業到達目標の学生理解度も把握等により教育実践の向上に向けた教育カリキュラムの改善への最適な方法として導入を目指す。

(4) 離学者対策（離学者改善検討委員会との協働）

- ・近年は離学者改善の傾向が認められ、本学全体の多様な取組による成果が確認される。引き続き前向きな取り組みにより多様な学生の学修の充実を図る。
- ・学習成果の可視化（ICT化）システムIzumiPurpose等の結果分析を全専任教員対象のFD研修会として導入業者からの説明により共有、授業クラス・学年・個々の学生毎の現在の学びに向かう意欲

や学習状況の把握に資する情報を提供、こうした取り組みにより、初期の段階で学習意欲低下を把握し個別対応に繋ぐ機会の提供、学習生活の躓きの要因を探り対策を検討などの具体的な手立てを実施、最善の方法を検討する。

- ・実習サポート委員会との連携による保育士資格・幼稚園教諭免許取得の支援の充実により進路への意欲の継続を支援する。
- ・保育士資格・幼稚園教諭免許以外の資格取得支援等により、在学・卒業意欲の強化を図る。
- ・課外活動・その他の充実により、多様な学生の居場所・就学の楽しさを提供する。

4. 多様な学生の学修支援

(1) 個別的な学習支援

- ・ラーニングセンターwill 新担当者により、充実した個別的学習支援の提供、市との連携によるインターンシップ実施の支援などの新しい取組、公務員受験対策等の新特別講座などが実施され効果をj得られている。引き続き学びのマネジメントWGとの協働により、積極的な展開を図る。
- ・2025年度にはウェルビーイングルームWG・学生委員会・GA・奨学金委員会との連携により、引き続き多様な学生の学修を支援する取組みに積極的に務める。
- ・個別的・継続的な学習支援を実現する各目的別支援員の職務内容充実・個人情報jの扱いと支援の連携についてなど、充実した運用をサポートする。

(2) 障がいその他の特別の配慮を要する多様な学生への修学支援の拡大に応じた運用

（「障がいのある学生等修学支援委員会・健康管理センター・スクールソーシャルワーカー」などとの協働）

- ・2024年度生から入学前教育で学修支援に関わるアンケートの調査内容・回収時期などの変更によりサポートを希望する学生の状況の把握・対応の検討の改善を図った。
- ・その成果に基づき、2025年度より「障がいのある学生等修学支援の申請」より1段階手前の支援に繋げる新しいシステムを導入し、グループアドバイザー・授業担当教員・各種委員会およびユニット職員と連携して、申請後のフォローアップなどの新しい方法を導入した。2026年度はエレベーターの完成などにより、さらに多様な学生の学び難さに対応するより幅広い環境が整うため、ソフト・ハードの両面から一人ひとりに寄り添った学修支援に積極的に取り組む。
- ・入学前から学習支援のための環境を整えるために合格通知に同送している「和泉短期大学における学生の通称名使用の取扱いに関する規程通称・別名使用」規程の運用について、学習支援にかかわる健康状況のアンケートに加え、2026年度は「こども性暴力法にかかわる同意・誓約書」も同送し、養成校に求められる社会的な責任を果たすと同時に、多様な学生の学習計画に関する効果的な対応を目指す。
- ・多様な学生（職業訓練委託生・社会人学生等）のクラス配置と学習支援の方法を検討・実施する。
- ・学習支援の実態について、具体的に省察したことがらについて、個人情報保護に十分配慮した方法により全教員に周知を図る。
- ・引き続き、多様な学生が大学教育に求める内容や学びづらさ等に丁寧に向き合う。

(3) 保育士資格・幼稚園教諭免許以外の資格取得の支援（おもちゃインストラクター・MOS・こども支援ソーシャルワーカー・普通救命講習Ⅲ修了など）

(4) ヒューマンケア専攻科との連携

- ・児童福祉学科での学習の先につながるヒューマンケア専攻科の学修内容の情報を、児童福祉学科授業内で共有する機会を増やし、卒業後の進路選択肢の一つとして意識化を図る。

5. 卒業生・社会人のキャリアアップ・キャリアチェンジ支援

(1) 卒業生・専門職社会人対象のリカレント教育の充実

- ・「本学リカレント講座－現任研修・公開講座」の実施支援により、卒業生・現職専門職の教育的支援の充実を図る。2026年度8月講座テーマ「保育・福祉実践現場のいま－ハラスメントの基礎知識

と防止対策を学ぶ（仮）」

(2) 継続的なリカレント講座開講について、講座内容・参加スタイルなどの検討

(3) 大学公開講座の充実（相模原市との連携による「喀痰吸引講習 2026年6月～実施予定」など）

6. 教員の交流と研究活動の支援

(1) 全教員打合せ会及び授業内調整会の実施（前年度2月末実施）

- ・ 2026年度本学の教育方針・理念や建学の精神等の再確認
- ・ 2025年度授業4クラスから2026年度3クラス化（講義系一部2クラス化）の説明。アクティブラーニングの促進についてアンケートを実施。
- ・ 2025年度後期からの「障がいのある学生等学修支援」方法の変更点の確認と、学生対応等のサポートについて情報共有を図る。

(2) 教員の授業運営・学生対応の支援

- ・ 非常勤講師のオフィスアワー支援
- ・ 教員（特に非常勤講師）のFD研修の充実（最新の学生対応と支援方法・ハラスメント対策など）

(3) 研究活動の支援

- ・ 研究費の活用、外部研究資金調達への支援 研究日及び研究期間の保障等に関する情報提供
- ・ 文部科学省等による外部資金獲得に向けた情報提供（FD）
- ・ 本学を取りまく教育活動・学務・地域連携・教育機関連携・広報活動等のニーズは高まる一方となり、教職員担当業務の複雑化・多様化・会議時間の増加により、心身の健康を維持する「働き方改革」の実現に向けた取り組み、授業および活動の準備・研究時間の確保は継続的な課題となっている。授業持ちコマ数以外の各教員の教育活動による貢献を客観的に捉える方法について検討・可視化を実施して、現状に対応した応分な教育活動の計画、および研究のための一定の期間と時間確保について改善を目指す。
- ・ 2026年度1年生・2年生共に3授業クラス（講義系一部2クラス）化による時間割の完成
その運用により各科目の授業時間数を概ね1コマずつ減じて、学生の拘束時間減による健康的な時間割を実現すると同時に、多様な学生への対応・各担当業務・研究等の充実のために専任教員の持ちコマ数の負担軽減を目指し、効果的運用を実施する。
- ・ 研究紀要・教職研究への投稿、及び学会参加・発表、共同研究等へ促進を図ると共に、さらに本学研究倫理委員会との連携により、精度の高い研究活動を支援する。

7. 保護者（保証人）との連携の充実

(1) 2024年度より改訂した「学びのハンドブック」の積極的な活用とWEB上での公開準備

(2) 保護者（保証人）への成績報告

(3) 多様な学修支援を要する新生入生について、入学前教育時から保証人との連携する機会を設けて4月入学時からのスムーズな大学生活開始を計る。

8. 学外との各種連携（質の高い保育・福祉実践の充実を目指して）

(1) 小・中・高等学校との連携強化（早期からの教育的連携プログラムの充実）

- ・ 高等学校との教育連携・市内高校校長との教育研究会の充実
本学と市内高等学校との関係作りは一定の効果を得ていると言える。さらに教育環境の複雑化・多様化を図る社会情勢に鑑み、本学の地域性・専門性を活かして高大の教育活動に効果的な具体的・継続的な連携を結ぶフェーズに一步を踏み出したい。
- ・ 市内に限定せず中高大の教育的連携の早期実現を目指す。はっぴい・すまいる等の地域連携・学生の教育プログラム・キリスト教主義保育者養成校の特色を生かした行事や式典等への中高生の参加を実現し、本学の教育内容の周知・広報効果、中高大相互の学び合いの機会の提供、保育・福祉分野への若い世代の興味・関心の拡大等の効果を目指す。

(2)産官学連携による保育・福祉環境の充実

- ・日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園・認定こども園協会、相模原市保育連絡協議会、相模原市高齢者福祉施設協議会 等との連携により講師派遣などによる充実を図る。

(3)専門職団体等との連携の充実（リカレント講座の具体的構築）

（キリスト教保育連盟、日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園・認定こども園協会、相模原市保育連絡協議会、神奈川県保育士会、神奈川県介護福祉士会 等との協働）

9. 教育情報の公開

(1)教育情報の開示（主にHP上に公開）

- ・ポリシー3種・シラバス等、基本的教育内容の公表
- ・自己点検・評価報告書の公表（「自己点検・評価委員会」との協働）
- ・教員情報の公表

(2)「公的研究費の管理・監査ガイドライン」に基づく体制整備

(3)「教育職員免許法施行規則第22条の6に既定する情報」の公表

(4)『教職研究』の発行

- ・講義・演習の質の向上と教職課程の科目に準ずる研究業績の保存・蓄積を目的に論集『教職研究』を出版。主に担当科目の授業研究等に関する研究結果を掲載。

学生委員会（学生部長 横川 剛毅）

1. 学生生活の支援に関する業務

(1)学生への教育内容・連絡事項の周知に関する業務

- ①学生サポートブックの編纂
- ②ウェブサイトでの周知、GoogleClassroomでの配信
- ③対面、口頭での連絡の徹底

(2)着実に充実した学生生活の実現に関する業務

- ①安心、安全な学生生活のための建設的話し合いの充実
- ②法令遵守、懲戒規程の周知の徹底
- ③リスクを伴うアルバイトや、SNSによる人権侵害行為の禁止についての継続的働きかけ
- ④スクールソーシャルワーカーと連携した、支援が必要な学生への相談援助体制の構築と実践
- ⑤サークル活動の充実に向けた準備、周知、調整、及び活動状況確認
- ⑥いずみ祭に向けた学生、学内関係部署、学外各所への周知と参画要請
- ⑦いずみ祭の開催と、結果に基づく振り返り、及び次年度に向けた準備の開始
- ⑧その他、学生生活上の諸事項に関する意見の聞き取りと対応

(3)アドバイザーによるグループ指導の支援に関する業務

- ①学生カードの受付・管理・個々の状況や指導内容の共有
- ②個々の学生の支援にかかる連携

(4)スクールバス利用に関する業務

- ①車内環境に関する連絡・調整
- ②スクールバス車内の学生対応・指導に関する支援（情報共有・乗車指導等）
- ③利用者である学生意見聴取やマナー向上を目的としたオリエンテーション

2. 学生の健康に関する業務

(1)健康管理センターに関する業務

- ①健康管理センター委員会開催による、学生の健康管理に関する検討・実施
- ②保健室利用ルールの学生への周知

- ③利用に関する連絡・調整・記録の作成
- ④グループアドバイザー・学内関係各部署との連携
- ⑤毎月発行の「健康管理センターだより」による、健康教育及び啓発の実施
- (2)健康診断に関する業務
 - ①学事予定における日程調整
 - ②担当医療機関との連絡、調整、支援
 - ③各委員会・ユニットとの連携
 - ④学生への当日の手順・ルールなどの周知
 - ⑤健康診断結果の配布・調整
- (3)障がいのある学生等修学支援に関する業務 <障がいのある学生等修学支援委員会>
 - ①申請書の受付
 - ②障がいのある学生等修学支援委員会の召集（日程調整・連絡）
 - ③申請内容・支援内容の検討
 - ④教務委員会・グループアドバイザーとの連携（依頼書の作成・情報の提供）

3. 感染症に関する業務 <健康管理センター運営委員会>

- (1)学校保健安全法に指定された感染症に関する業務
 - ①法令に基づく学生対応の実施
 - ②学生から配慮申請あった際の聴き取りと、教育・学習支援ユニットへの報告

4. 進路支援に関する業務 <就職委員会>

- (1)授業科目「キャリアデザイン」に関する業務
 - ①年間スケジュールの立案・教務委員会との連携
 - ②学事における日程調整
 - ③委託先への依頼・日程内容調整
 - ④教室・担当者の決定・周知
 - ⑤学生の出欠管理・アドバイザーとの連携
- (2)就職支援に関する業務
 - ①学生への進路に関するルールの周知（学生サポートブック、キャリアデザイン）
 - ②学生への求人情報の開示（進路支援センター内掲示・ウェブサイト）
 - ③就職試験に関する支援、相談、指導
 - ④就職先へ募集要項受付の案内発送・ルールの周知
 - ⑤就職先との連携（訪問者の面談・情報提供・本学卒業生の就労状況に関する雇用先の満足度調査—卒業生の雇用に関する満足度調査など）
 - ⑥卒業生（卒業後3～7年対象）向けに、勤務状況と本学の教育の成果と効果についてのアンケート実施
 - ⑦就職説明会の企画・調整・実施（キャリアデザイン）
- (3)就職先に関する業務
 - ①授業科目「キャリアデザインⅡ 就職説明会」に関する依頼・調整・当日の支援
 - ②就職先内定後研修の情報収集、養成校と就職先の連携方法や内容提言の検討

5. 学生の経済的支援に関する業務

- (1)奨学金に関する業務 <和泉奨学金委員会>
 - ①本学独自奨学金の情報提供、募集、手続き支援、及び公正な選考
学修奨励奨学金、和泉短期大学児童福祉奨学金、眞鍋記念奨学金、和泉短期大学愛のいずみ基金奨学金、和泉短期大学学生ボランティア活動奨励奨学金、和泉短期大学父母会奨学金
 - ②外部奨学金の情報提供、募集、手続き支援、及び公正な選考

- ・日本学生支援機構奨学金、各自治体の保育士修学資金、ウェスレー財団学費助成金、ニッセイ聖隷健康福祉財団介護福祉士等養成奨学金、生命保険協会保育士修学資金、生命保険協会介護福祉士修学資金貸付金など
- ・本学と法人との協定に基づく奨学金（社会福祉法人さがみ愛育会、社会福祉法人竹沢積慈会、株式会社オフィスハンダ）

(2) 学生保険に関する業務

- ① 学生教育研究災害傷害保険の手続き
- ② 学生への情報提供・手続き支援

6. 学生の賞罰に関する業務

(1) 表彰に関する業務

〔中島武夫記念賞、讃岐和家記念賞、伊藤忠利記念賞、眞鍋記念賞〕

〔和泉短期大学学長賞・ボランティア活動奨励賞〕

- ① 各賞についての周知（学生サポートブック）
- ② 教職員へ推薦者募集の周知、受付、資料作成
- ③ 受賞者の選定（教授会）、受賞者への連絡
- ④ 表彰式の日程調整、贈呈者へ依頼、実施
- ⑤ 情報の公開（ウェブサイト・IZUMI NEWS など）

(2) 懲戒処分に関する業務

- ① 事象発生の把握、情報収集
- ② 危機管理委員会への情報提供、日程調整
- ③ 当該学生（保証人）への連絡、手続きの支援
- ④ 情報の公開の検討、調整、実施

7. 学友会・各種学生の委員会活動に関する業務

(1) 学友会活動への支援に関する業務

- ① 年度当初の大学との意見交換実施
- ② 新入生オリエンテーションでのガイダンス支援（前年度内の準備など）
- ③ 学友会主催行事開催の支援
- ④ 新入生勧誘企画の支援（サークル勧誘デーなどの準備・機材貸与）
- ⑤ 学友会総会（年2回）開催の支援
（日程調整、委任状、アンケート準備、予算案、活動計画、学友会総会結果の周知）
- ⑥ 学生の大学教育活動と参加に関する企画・支援（感染症予防対策・教育的活動など）
- ⑦ 大学との意見交換（振り返り）の実施
- ⑧ 執行部の活動の支援
・各部門の担当決め・新年度学友会委員顔合わせなどの支援
・学友会運営の支援・後期1年生執行部決めの支援・総会準備

⑨ 学友会予算の検討

⑩ 学友会からの卒業記念品の検討

(2) 学生の各種委員会活動への支援

- ① 学生の委員会・人数の検討・調整
- ② 委員会と活動内容の周知（学生サポートブック、グループミーティング）
- ③ 入学・進級時オリエンテーションでの周知
- ④ グループアドバイザーへの情報提供・委員決定の依頼
- ⑤ 各委員会の活動支援

(3) iversity祭に関する業務

- ①年間の活動スケジュールの立案・調整
- ②iversity祭実行委員会、授業科目担当者、サークルとの連携・活動支援
- ③学外諸機関・諸団体との連絡調整
- ④飲食出店等に関する企画立案、外部各社・地域との連絡・相談などの支援
- ⑤父母会・後援会・同窓会との連携
- ⑥各ユニットとの連携（情報提供・日程調整・職務分掌・打ち合わせ会など）

(4) 卒業証書・学位記授与式に関する業務

- ①教育・学習支援ユニットとの連携（式典との時間・内容調整など）
- ②各ユニットとの連携（庶務ユニットとのバス運行予定調整など）
- ③父母会との連携（ガウン貸し出し支援）
- ④入学・卒業式典サポート委員会への情報提供、式典後の活動内容の検討、実施の支援

8. 課外活動に関する業務

(1) 課外活動への支援に関する業務

- ①学友会サークル部門及びサークル顧問との連携・活動支援
- ②学内外諸活動に関する支援
- ③活動申請の支援（活動申請書・活動届・引率・交通費等）
- ④サークルバスの運行に関する連絡・調整
- ⑤サークル活動日の職員の勤務調整

9. 父母会・後援会に関する業務

(1) 父母会との連携に関する業務

- ①父母会総会の開催の支援（通知・記録など）
- ②父母会報の発行の支援（データ・写真提供）
- ③父母会活動の支援（業者との調整－植栽・観葉植物・卒業ガウン保管など）
- ④メモリーブックの作成に関する業務

(2) 後援会との連携に関する業務

- ①後援会活動の支援（活動計画・活動予定・予算）
- ②後援会総会開催の支援（日程調整・通知・会場準備・記録）
- ③会報発行の支援（データ・写真提供）

10. 卒業生に関する業務

(1) 就職情報の提供（既卒者募集情報）

(2) 住所・氏名変更などの受付・登録（卒業時のみ。卒業後の担当は同窓会）

2026年度重点課題

- (1)多様な一人ひとりが、安心・安全に学生生活を送るための支援
- (2)充実した学生生活を実現するための学友会活動支援
- (3)学生主体のiversity祭の実施
- (4)委託訓練生の修学支援（学生生活状況の把握、学内外各機関との連携など）
- (5)法令遵守、懲戒規程の周知、SNS などによるトラブル防止の注意喚起と働きかけ
- (6)学生一人ひとりに合わせた進路支援の充実（就職・進学）
- (7)ステークホルダー、及び地域との連携の継続、拡充、深化

入試広報委員会（入試広報部長 松山 洋平）

1. 広報関係

- (1) 学園報（IZUMI NEWS）の発行（2回／年）
- (2) 入学案内冊子の作成及び充実のための検討、デジタル化の推進
- (3) 保育・福祉業界への現状周知のための冊子の作成
- (4) 入試対策の開催及び充実のための検討（オープンキャンパスのプログラムの再構築）
オープンキャンパス 9回、ナイトオープンキャンパス 4回、キャンパス見学会、
LINE 個別相談随時、WEB 動画配信による大学紹介、入試説明、他イベントなど
- (5) ホームページ及びSNS（X、LINE、Facebook、TikTok、Instagram）によるニュース配信や充実のための検討
- (6) 進学相談会等（高校教員進学説明会 2回、高等学校・小・中学校・保育施設合同の「保育・福祉授業研究プログラム」）
- (7) オープンキャンパススタッフ学生、ワークスタディ学生の育成及び卒業生、入学前教育との連携
- (8) 高等学校進路説明会（進学説明、模擬授業）の開催及び卒業生活用も含めた充実の検討、データ活用に基づく訪問の強化
- (9) 公開講座（市民大学・さがまちカレッジ等）充実のための検討
- (10) 公開授業（市内小学校・中学校・高校[高大接続授業]）の開催及び充実のための検討
- (11) 保育・福祉職への関心を高めるための中等教育との連携強化（入試広報戦略）
- (12) 相模原市保育連絡協議会、相模原市幼稚園・認定こども園協会、相模原市保育士会、相模原市園長会、横浜市幼稚園協会、神奈川県幼稚園協会等の産業界、相模原市保育課、教育委員会、保育士等人材確保推進事業等の自治体等との連携強化（地域連携活動の強化）「第3次中期計画（2025年度～2029年度）15のビジョン」に向けた対応
- (13) 地方学生に向けた取り組み（不動産会社とさらなる連携）
- (14) SC 相模原 ホームゲーム時の「託児室」の開設
- (15) 同窓会との交流
- (16) その他の広報活動の遂行

2. 入試関係

- (1) 学校推薦型選抜指定校の選定と選考方法の変更
- (2) 総合型選抜の提出書類の検討と保育福祉コース、授業参加コースの充実
- (3) 入学案内書の充実
- (4) 入試マルわかり BOOK の改定
- (5) キリスト教・キリスト学校対象スカラシップの実施
全額給付スカラシップ制度（一部指定校対象）の実施
- (6) 神奈川県専門人材育成コース 委託訓練生の募集
- (7) 他大学の入試関係データ収集
- (8) 他大学の入学者状況の把握
- (9) その他の入試関係業務の遂行

実習サポート委員会（実習サポートセンター長 矢野 由佳子）

1. 実習に関する業務

- (1) 実習先施設の選定・連絡・調整
 - ① 実習依頼・実習配属に関わる連絡・調整
 - ② 実習指導連絡会の実施（保育実習・教育実習／年2回）
 - ③ 「実習・実習指導 実施要項－実習指導のミニマムディマンド」作成と実習先への送付

(2) 実習実施に関わる業務

- ①保育実習Ⅰ（保育所・施設）実習先確保と1月・2月調整
 - ②上記①の実施期間の一本化（1月：保育所、2月：施設）
 - ③登録課題（希望実習先レポート）の受付と配属
 - ④学生の諸手続の支援（希望実習先レポート、実習生個人票、各種検査結果の扱い、実習の記録、実習定期など）
 - ⑤実習指導担当教員への学生の事前事後学習状況の把握・実習中止に関する手続きなどの支援（各種フォーマットの作成、配布）
 - ⑥腸内細菌検査・予防接種抗体検査などに関する伝達・調整（実習先・学生・教員）
 - ⑦健康管理センターとの連携（専門職としての健康などに関する指導、健康状況に関する相談・連携、検査結果の理解など）
 - ⑧訪問指導担当教員の訪問先希望調査、配属調整、発表
 - ⑨訪問指導にかかわる謝礼・交通費などの手続き
 - ⑩実習に関する問い合わせの受付・伝達・調整（実習先・学生・保証人・教員）
 - ⑪学生の実習実施状況に関する情報、実習訪問指導記録の管理
 - ⑫実習先パンフレットなど関連資料の収集と学生への提供
- (3) 学生の合理的配慮を要する事例について
- ①実習指導授業担当教員との連携・協議など
 - ②障がいのある学生等修学支援委員会との連携・協議など（実習に関する支援）

2. 実習指導授業に関する業務

- (1) 授業「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「教育実習指導」の計画・立案・支援
- ①授業実施計画の立案と実習授業・実習指導計画一覧の作成、配布
 - ②実習指導授業の企画・運営（各種：全体、1・2年生合同、実習先別、施設種別など）
 - ③実習の事前・事後指導に活用する教材の編纂・印刷・配布
 - ④実習事前学習としての複数面談の企画・資料作成・実施
 - ⑤「実習指導授業」担当教員の支援（情報提供、資料作成、予定表・フォーマット作成など）
- (2) 「実習指導授業」の内容・方法の研究・改訂
- ①実習授業・実習指導計画の立案。授業「キャリアデザイン」・学事との日程調整。
 - ②「実習ルールブック」作成、配布
 - ③実習の記録（日誌）の作成、配布
 - ④改訂版「実習ステップブック」の活用（発行日までの教材準備）
 - ⑤SA（スチューデント・アシスタント）への支援、指導
- (3) 他授業・委員会と関連した業務
- ①「ふれあい体験・ボランティア活動」と連携し、実習指導授業内で保育を学ぶ学生のマナー・モラルについての授業を実施
 - ②学生の実習支援に関して健康管理センター（健康管理センター運営委員会）・障がいのある学生等修学支援委員会との連携
 - ③子ども支援ソーシャルワーカー資格に伴う福祉現場体験の依頼施設への依頼状の送付、回答書の管理、体験先の学生への伝達

3. 2026年度の重点課題

- (1) 実習指導連絡会の充実のため、教務委員会、学生委員会と連携する。
- (2) 引き続き、合理的配慮を要する学生への対応について、健康管理センター・各部署・授業担当教員との連携・協議を図る。（障がいのある学生等修学支援申請書による円滑な連携・支援方法、学生委員会・授業担当教員ほかとの具体的な連携方法の構築）

- (3) 学びのマネージメント WG との連携による実習指導内容の精査・充実。
 ポートフォリオ・GoogleClassroom を活用した学生への連絡について検討・充実。特に事前学習教材「生活技術に関する資料」の検証・活用
- (4) 2025 年度実習サポートセンター体制での職務分掌・作業や連絡時期と方法の検討、及び協力体制・支援の質の維持を実現する。更に迅速・丁寧・正確・充実した学生・指導担当教員の支援の向上を目指す。
- (5) 実習管理システムの改善を継続し、情報提供の質の向上を図る。
- (6) 引き続き、実習先・学生・授業担当教員・関連部署との確実な連絡・調整・協議を可能にする支援・作業方法の周知を目指す（書類・各種フローチャート・メール・電話など）
- (7) 引き続き、実習ごとに定められた実習(学習)の内容・目標、本学の実習実施・単位認定のルールなど、基礎的・基本的な実習指導内容を確実に修められる、全クラス共通のカリキュラムの実践を目指し、テキスト「実習ステップブック」・「実習ルールブック」・「実習の記録」を活用した授業実践支援方法の研究・改善・充実に努める。
- (8) 学生の事前・実習中・事後の学習の充実・向上に関わる「実習の記録」(日誌)の作成や、実習目標の内容理解について、実習指導以外の授業科目との連携を図り、指導内容の向上を目指す。
- (9) 学習意欲・学習効果を高め、学習の目標を明確にイメージする授業内容を目指す。グループ・全体・1.2 年生共同・グループ合同・施設種別・実習先別授業など学習内容に最適な授業形態を工夫、また will・CDC を活用した自己学習の連携・構成を図る。
- (10) 「保育実習支援システム」(富士フィルムシステムサービス株式会社)を導入し、実習生支援の質の向上、教職員の負担軽減、経費削減を図る。

地域連携推進センター委員会（委員長 松浦 浩樹）

本委員会は、次の委員会、ワーキンググループを設置し活動を行う。

【図書委員会】（委員長 松浦 浩樹）

1. 研究紀要発行に関する検討
 - ① 査読付き論文を含む研究紀要第 46 号の発行
 - ② 研究紀要の電子化の検討（J-STAGE への登録検討）
2. 特設展示の充実
 - ① 新着図書紹介
 - ② 各種特集図書の別置・企画展示
3. 蔵書の充実
 - ① 保育に関する専門書及び絵本の充実
 - ② 選書バイヤーツアーによる蔵書購入
 - ③ シラバスに基づいた蔵書の構築
 - ④ 電子書籍及びデータベースの導入に向けた検討
4. 図書館利用者サービスの向上
 - ① 書架案内表示の充実
 - ② 卒業生・入学予定者の利用の周知
 - ③ すまいいい参加者・市民大学講座受講者、地域住民等が利用しやすい環境づくり
 - ④ 図書館利用者教育、図書館ツアーの実施
5. 図書館利用者のモラル向上
 - ① 人的環境整備（掲示・声かけ等の取り組み強化）
 - ② 図書未返却者への督促強化
 - ③ 資料の紛失等への対策強化

- ④ 利用者の拡大に伴う防犯対策の充実
- 6. 図書館ワークスタディアルバイト学生の活用
 - ① 募集方法の開拓
- 7. 図書館サポーター活動の充実
 - ① 選書ツアー（3. ②）
 - ② POP 製作・展示
 - ③ 学生からの意見・提案聴取
- 8. 図書館主宰イベントの実施
 - ① POP コンテストの実施（2023 年度から実施）
 - ② その他（ブックガチャ、館内上映会開催 等）
- 9. 図書館ホームページの充実、リンクの充実
- 10. ラーニングセンターwill との連携
- 11. 相模原市内大学図書館と相模原市立図書館との相互協力連絡会への参加
- 12. 全国図書館大会への参加
- 13. 卒業生、特別利用者の利用者手続き
- 14. 感染予防対策の館内換気及び衛生
- 15. 中長期将来計画案の作成

図書館利用について、現状のニーズに対応できていない。そのため以下の点について、中長期的に検討を重ねる。

- ① 現状「図書館」でよいのか？「図書室」ではないか。
- ② 図書館の位置：本館 1 階
 - もしくは体育館リトミック室+A-1、A-2 教室へ
 - この場合リトミック室を現 101 教室に総合実習室として移動
 - コミュニティーサロン（コンビニ）を総合支援センター（第 2 事務室）に
- ③ 蔵書の管理体制
- ④ 図書館利用（ルール等）の抜本的改革

【地域連携推進委員会】（委員長 松浦 浩樹）

地域と連携して行う活動の窓口となり、定例的に行っている以下の活動を中心に、随時地域貢献事業を検討、実施する。

I. 地域連携プログラムワーキンググループ（委員長 松浦浩樹）

- 1. 学生のボランティア活動の支援・情報提供
 - ① ボランティア募集に関する情報提供と実施に関する支援
 - ・ボランティア活動の推奨、パンフレット・チラシ・ポスター等の掲示・配付
 - ・ボランティア活動届の配付・受付
 - ② 相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度への応募促進
 - ・学生に対するボランティア活動の推奨と本制度の周知
 - ・相模原市への推薦業務
 - ③ 学生サークル等のボランティア活動支援
 - ・赤い羽根募金運動含む
- 2. オレンジリボン活動
 - ① オレンジリボン・キャンペーンへの協力と協働（相模原市包括連携協定校事業関連）
 - ・オレンジリボン作成、相模原市作成の児童虐待防止啓発グッズ配布への学生参加促進
 - ・図書館内に子ども虐待防止啓発コーナーの設置
 - ・学内とユニコムプラザ内本学ブースにオレンジリボン配置他

- ② オレンジリボン運動（（NPO 法人）児童虐待防止全国ネットワーク）への報告
 - ・学内に子ども虐待防止の啓発ポスター等の掲示
 - ・マスク配布（学内とユニコムプラザ内本学ブースに配置他）

3. ユニコムプラザ関連事業への協力

- ① まちづくりフェスタ参加
- ② 多胎児フェスタへの協力
- ③ その他関連事業への協力（さがまちチャレンジ等）

4. さがまちコンソーシアム関連

- ① 「市民大学」開催
- ② さがまちカレッジ開催
- ③ さがまちインターンシップ、さがまち学生 Club 等学生参加の活動の紹介と参加促進

5. 相模原・町田地域教育連携プラットフォーム（代表校：青山学院大）に参画

（私立大学等改革総合支援事業：タイプ3「地域社会への貢献」（プラットフォーム型））

この一部である「地域交流イベント」の実行委員会の責任校として本委員会がこれを担う。

和泉短期大学で実施予定の「防災展示プログラム」「たまごフェス」（新規：食堂フェス（社食・学食））を基盤に、相模原市役所・商工会議所青年部、および関連事業（企業）団体と連携を図りつつ、プラットフォーム参加大学間の学生交流を促進し、地域の福祉・教育と地域再生・充実を目論む。

- ① 地域交流イベント実行委員会の開催（本実行委員会での企画作成）
- ② 自治体・産業界等との連携
 - 町田市・相模原観光協会・相模原商工会議所青年部との交渉
- ③ 構成会員以外の大学への連絡・イベントへの参加

6. 関連事項・ニュース等の把握・広報

- ① 相模原市立図書館協議会委員としての活動（図書館長）
 - 図書館事業評価、淵野辺駅南口周辺のまちづくりの取り組み
- ② 相模原市中央区光が丘地区まちづくり会議への参加と協力
- ③ 学生食堂の地域開放（利用者数の把握）
- ④ 関連団体の会合出席と情報共有

II. 子育て支援プログラム（はっぴい・すまいい）ワーキンググループ】

（委員長 吉田 久仁子）

1. 子育てひろば「はっぴい」の開催（年間13回）

- ① 子育て家族への支援
 - 安心・安全な遊び場の場として多世代が集える場の提供
 - 季節に応じた活動、良質の文化・芸術に触れる体験の提供
 - 保育支援者によるサポート体制を整え、参加者からの相談に応じる。
 - ワーキンググループ委員の他、専任教員の参加
- ② 学生に実践的な学びの場を提供する
 - 乳幼児とのふれあい・保護者とのコミュニケーションの場の提供
 - 学生主体の企画を発表する場の提供
 - 事前準備から当日終了までの計画立案・環境整備に関わる機会の提供
 - 参加学生間の交流と実践の場の提供
- ③ 入学前教育プログラムとして高校生参加の機会を設定する
 - オープンキャンパス（入試広報委員会）と連動する開催日の工夫
- ④ 卒業生との連携

子育て世代の親子参加の促進

同窓会広報活動への協力

⑤ その他

参加保護者への聞き取り、学生への調査を実施し、地域貢献活動のあり方・学生の現状と要望を探る

2. 子育てひろば「はっぴい」の担当教員の当番制について

専任教員のこれまでの経験値や専門性を鑑み、活動に必要な専任教員を本ワーキンググループが担当者として依頼する。

3. CDCの整備及び子育てひろば「すまいいい」(施設開放:授業のある毎週木曜日の実施。年間43回予定)との連携

① 地域親子にCDCを遊び場、子育て支援の場として開放する

保育の場として相応しい環境整備を継続する

② 学生の保育就業力を支える実践の場としての環境

③ 蔵書の追加

4. 親子利用者の管理について

① 初回参加時に利用者票(利用者氏名と続柄および連絡先、子の氏名・年齢・性別・住所・その他保険請求時に必要な情報等)を記入。併せて、参加時の注意事項の確認と承諾の署名を徹底。

② 2回目以降の参加時、「はっぴい」はQRコードを使いGoogleフォームから利用登録。

「すまいいい」は簡略した一覧表に記入。参加時の受付をスムーズにする。

③ 利用者の個人情報の管理を徹底すると共に利用者の利用状況をデータ化し、研究のデータとしても活用できる体制を構築する。特に撮影データの研究ならびに広報への使用の協力。

児童福祉研究室(室長 矢野 由佳子)

児童福祉研究室は、法人創立60周年を機に、和泉短期大学の建学の精神である「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を具現化するため2017年11月に設立された。その目的は本学教員の専門性および教育研究活動の成果を発信し、地域の保育・福祉に貢献することにある。この目的を達成するために、児童福祉研究室が行う事業として次の5項目が和泉短期大学児童福祉研究室規程に定められている。

- (1) 保育・福祉に関する研究および研修会・講演会の開催等
- (2) 本学の教育研究活動に基づく地域保育・福祉に寄与する刊行物の発行
- (3) 地域住民を対象とした保育・福祉に関する相談支援
- (4) 定年退職者の最終講義録の刊行物掲載
- (5) その他、児童福祉研究室の目的の達成に必要な活動

まずは、(2)本学の教育研究活動に基づく地域保育・福祉に寄与する刊行物の発行に相当する事業を展開するために、2018年度より児童福祉研究「いっしょに子育て」を年1回発刊することを定めた。そこで、2026年度においても、引き続き「いっしょに子育て」第9号を発行して、子育てに関する親しみやすい内容を提供すると同時に、地域住民と和泉短期大学の結びつきの強化を図りたいと考えている。

2026年発行の児童福祉研究「いっしょに子育て」第9号の大枠は以下を計画している。

- ① 子どもの育ちに関する専門的知見からの提言
- ② 保育・福祉に関する教育研究活動に基づいた提言
- ③ 海外の保育・子育て事情に関するレポート
- ④ 子育てに役立つ情報提供等

また、2025年度より、地域の子育てへの更なる貢献を目指して、(3) 地域住民を対象とした保育・福祉に関する相談支援に関わる活動について、地域連携推進委員会および「子育て支援プログラム(はっぴい・すまいりい)WG」と検討を行っている。2026年度も継続して、「すまいりい」「はっぴい」内での保護者を対象としたワークショップの開催等を計画している。

そして、(1) 保育・福祉に関する研究および研修会・講演会の開催等に関連し、2026年度も教員の研究支援を充実させたいと考えている。具体的にはデータ分析や論文執筆の際の疑問などに教員同士で協力し合う相談窓口としての機能・環境を構築したい。

7. 広報活動

(1) 製作・発行物

・入学案内書一式	2026年	3月下旬発行予定
・全教員紹介	2026年	4月上旬発行予定
・オープンキャンパスチラシ	2026年	3月下旬配布予定
・保護者向け冊子	2026年	4月中旬配布予定
・首都圏高等学校送付入学案内書パック	2026年	4月下旬発送予定
・IZUMI NEWS 66号	2026年	6月上旬発行予定
" 67号	2027年	1月上旬発行予定

(2) 主催型広報活動

- ・高等学校教員対象進学説明会（5月2回）
- ・高大接続授業研究プログラム（8月1回）
- ・LINE 個別相談（1年間随時）
- ・ホームページ及びSNS（X、LINE、Facebook、TikTok、Instagram）情報発信

オープンキャンパス

開催日	開催時間	内容
4/25（土）	10:00～12:30	OC①
5/23（日）	10:00～12:30	OC②
6/5（金）	17:30～19:30	ナイト①
6/13（土）	10:00～12:30	OC③
7/4（土）	10:00～12:30	OC④
7/10（金）	17:30～19:30	ナイト②
7/18（土）	10:00～12:30	OC⑤ お菓子プレゼント
8/1（土）	10:00～13:00	OC⑥ ランチ体験
8/22（土）	10:00～12:30	OC⑦
9/18（金）	17:30～19:30	ナイト③
10/16（金）	17:30～19:30	ナイト④
10/24（土）	—	いずみ祭 進学説明会
2027/2/6（土）	10:00～12:30	OC⑧
3/27（土）	10:00～12:30	OC⑨

(3) 参加型広報活動

- ・相模原市立市民・大学交流センター内「大学情報コーナー」（通年）
- ・高等学校内ガイダンス・オンラインガイダンス・模擬授業（随時）
- ・かながわ短大フェア（神奈川県私立短期大学協会）（4月1回）
- ・進学相談会（会場形式）（随時）
- ・SC相模原「託児室」（百年構想リーグ 2月～5月・26～27 シーズン 8月～6月）

和泉短期大学

(1) インターネット関連

(2026年度)

広告代理店名	掲載紙等	時期
(株)ライセンスアカデミー	進路ナビ (インターネット商品)	1年間
(株)リクルート	スタディサプリ進路/基本参画、学科企画、先輩企画、OC企画 (インターネット商品)	1年間
キッズコーポレーション(株)	進学ナビ (インターネット商品)	1年間
チエルコミュニケーションブリッジ(株)	ポータルサイト (高校生のキモチ) ライトプラン	1年間
(株)マイナビ	マイナビ進学 (インターネット商品)	1年間
(株)進研アド	マナビジョン短大パッケージ (インターネット商品)	1年間
LINE ヤフー(株)	LINE	1年間
(株)日東システムテクノロジーズ	ベスト進学ネット (インターネット商品)	1年間

(2) 雑誌掲出

(2026年度)

広告代理店名	掲載紙等	時期
(株)ライセンスアカデミー	大学新聞 夏のオープンキャンパス特集	7月
	大学新聞 注目の講座特集	10月
	大学新聞 名刺特集	2027年1月
(株)キッズコーポレーション	進学の森 大学・短大首都圏版	4月
(株)マイナビ	マイナビ進学ガイド 学校情報号 首都圏版	5月
(株)さんぼう	大学・短期大学まるわかり事典 (東日本版)	4月
(株)進路情報ネットワーク	高校生・保護者のための進路BOOK	4月
	学校研究ノート	6月
(株)進路企画	大学・短期大学進学ガイドブック	4月
(株)教育通信社	進路テキスト進学編	5月
	進路テキスト進学編 オープンキャンパス日程一覧	
(株)進学教育研究社	「ガマダス」説明会配布用大学ガイド	4月
神奈川県私立短期大学協会	神奈川の私立短期大学	4月
神奈川県高等学校教科研究会	家庭部会会報	5月
(株)タウンニュース社	こどもタウンニュース	7月
	タウンニュース 元旦号・名刺広告・Web掲載	1月
神奈川案内広告(株)	神奈川新聞 私立大学迎春特集	1月
(一社)キリスト教保育連盟	月刊「キリスト教保育」	10月

(3) 交通広告等掲載

(2026年度)

広告代理店名	掲載紙等	時期
神奈川中央交通(株)	バス停正式名称「和泉短大前」保守管理	1年間
(株)神奈中商事	路線バス車内放送広告 (相模大野区間・淵野辺区間)	1年間

2026年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

金額

(教員関係経費)

10,374

研究費	児童福祉学科	単価	×	教員数	
○ 教授		250	×	7	1,750
○ 特任教授		250	×	1	250
○ 准教授		240	×	4	960
○ 専任講師		230	×	2	460
○ 助教		220	×	2	440
○ 特任助教		220	×	1	220
				17	計 4,080
	専攻科	単価	×		
○ 准教授		240	×	1	240
○ 特任教授		250	×	1	250
○ 特任助教		220	×	1	220
				3	計 710
				20名	合計 (4,790)

学長裁量費

○ 共同研究費	1,300
○ 大学教育改革プログラム	
	計 1,300

合計 6,090

教材費	○ 専任・非常勤教員	2,284
旅費交通費	○ 学会参加 1回 @50限度 1人 2回 20名	2,000

(施設)

182,307

土地	内容	設置場所	繰延	金額
○ 土地	○ 土地<第2号基本金対象資産> 1,536㎡	スクールバス駐車場	繰延 ①	150,000
	※ 2024年度から繰り延べ、基本金組入れ額の変更			
			計 (150,000)	
建物	○ 特定天井改修<設計費>	クラーク・ホール 3号館	④	12,100
	○ 特定天井改修	ラウンジ 4号館	④	13,607
	○ 建物付属電気設備 受変電設備	第1変電所(2・4号館) 取替更新	④	6,600

(設備)

4,427

教育研究用機器備品	内容	設置場所	取替更新	金額
○ プロジェクター一式	4教室	A-1,A-2,104,200教室	取替更新 ②	3,181
○ 教卓周り機材一式	1教室	101教室	取替更新 ②	230
			計 (3,411)	
図書	○ 児童福祉学科 996 専攻科 20			1,016
			計 (1,016)	

2026年度 事業計画 予算

和泉短期大学

(単位:千円)

新規及び主な経費	青字	内 容	数	場 所	金 額
消 耗 品 費	○	周年記念フラッグサイン	6枚		取替更新 ⑥ 196
	○	椅子	40個	104教室	取替更新 ② 79
	○	バーコードデータコレクタ	1台	図書館	取替更新 ② 25
	計 (300)				
印 刷 費	○	70周年記念リーフレット	1,000部		新規 348
	○	児童福祉研究室 第8号(刊行誌)	1,500		396
	○	学びのハンドブック	380		285
	○	学生生活サポートブック	200		537
	○	研究紀要	350		583
	○	教職研究	150		165
	○	自己点検・評価報告書	200		115
	計 (2,429)				
光 熱 水 費	○	電気			16,359
	○	水道			857
	○	プロパンガス	1㎡あたり10円値上げ		938
計 (18,154)					
維 持 修 繕 費	○	照明器具取替更新	LED化	1・2・4号館	⑥ 16,247
	○	屋上シート防水塗装		2号館	⑥ 7,150
	○	揚水ポンプ取替更新		2号館	⑥ 1,155
	○	自動ドア開閉装置等更新	2か所	1号館	⑥ 737
	○	テニスコート改修	駐車場化	テニスコート	新規 ⑥ 2,925
	○	防草シート施行		多目的広場	新規 ⑥ 523
	○	エレベータ保守料金		1号館	新規 ④ 209
	○	エレベータ部品交換		4号館	取替更新 ④ 824
	○	既存施設設備修繕費			3,300
	○	構内樹木剪定		校地・グラウンド	1,111
	計 (34,181)				
通 信 費	○	インターネット回線 遠隔会議対応	年間使用料	2号館、4号館	継 続 ② 687
	○	インターネット回線 遠隔授業対応		1号館、3号館	継 続 ② 580
	○	電話料			549
	○	スクールバス遠隔監視システム通信料			123
計 (1,939)					
支 払 報 酬 手 数 料	○	実習記録WEBクラウド契約料		教学ユニット	新規 ② 110
	○	勤怠管理システム利用料			継 続 ⑦ 300
	○	電子稟議書経路検索オプション利用料			継 続 ⑦ 95
	○	電子稟議書年額利用料	年間使用料	庶務ユニット	継 続 ⑦ 634
	○	電子帳簿法対応システム使用料	2024年1月施行	庶務ユニット	継 続 ⑦ 40
	○	学修成果の可視化システム年間使用料	年間管理料	教学ユニット	継 続 ② 1,100
	○	アセスメントテスト(基礎力リサーチ)	1.2年生	4回	継 続 ② 1,120
	○	ZOOM 法人契約アカウント使用料	25アカウント		継 続 ② 375
	○	MS包括ライセンス	56		継 続 ② 705
	○	授業目的公衆送信保証金	学生数	著作権	継 続 ② 185
	○	スクールバス運行料	4台		35,904
	○	監査報酬、弁護士報酬、税理士報酬他			3,955
	○	校医料、健康診断料			564
	○	食堂委託管理費			5,300
	○	管理人業務費 機械警備含む			5,948
○	web出願システム			594	
○	業務用システム維持支援費		教学	462	
○	学生・教職員安否確認システム			146	
計 (57,537)					

2026年度 事業計画 予算

和泉短期大学

新規等の主な経費

(単位:千円)
金額

賃借料	内 容	数	場 所	金額
	○ コロナ対策 ウイルス除去装置	26台	13教室他	継続 ③ 973
	○ コロナ対策 ウイルス除去装置(再リース)	20台	9教室	継続 ③ 57
	○ 教員用ノートパソコン	30台	研究室他	314
	○ 職員用 パソコン デスクトップ	24台、サーバー2台	事務局	128
	○ 学生用パソコン ノート	50台	212教室	1,479
	○ 複合機・印刷機	3台	1号館・2号館	338
	○ 複合機	1台	実習サポートセンター	新規 ② 233
	○ 防犯カメラシステム一式(再リース)	19か所	学内外	70
	○ スクールバス 再リース	4台	大型3台、中型1台	8,514
	○ AEDリース料	3台		124
	○ 借植木	大鉢 8、中鉢 5	1号館	336
	○ 公用車リース料	1台	軽自動車	278
	○ スクールバス駐車場賃料	1,536㎡	2号館隣地	値上げ 2,970
			計 (15,814)
奨学費 (給付)	内 容	人数	目的	金額
	○ 高等教育の修学制度による奨学費	46名	入学金・授業料	1年生 ⑤ 40,020
	○ 高等教育の修学制度による奨学費	46名	授業料	2年生 ⑤ 26,041
	○ スカラシップ特待生奨学費	7名	入学金・授業料一部	1年生 ⑤ 2,100
	○ 眞鍋記念奨学金	5名		650
	○ 児童福祉奨学金	2名		300
	○ 卒業生・在学生家族	6名		300
	○ 学修奨励奨学金	38名		1,820
	○ ボランティア活動奨励奨学金	1団体		50
	○ 緊急支援奨学金	1名		500
	○ ヒューマンケア育成奨学金	2名		1,000
	○ 愛のいづみ基金奨学金	1名		500
	○ 専攻科 学業修学資金	1名		300
	○ さがみ愛育会 スカラシップ	2名		1,000
	○ オフィスハンダ スカラシップ	2名		500
			計 (75,081)
広報宣伝費	内 容	個数	場所	金額
	○ SC相模原 ブロンズパートナー		メインスタンド/バナー契約	継続 1,100
	○ 和泉短期大学前停留所車内放送	淵野辺駅行き、相模大野駅行き区間		継続 220
	○ 入学案内書、媒体広告他			16,574
	○ 業務用システム維持支援費		広報	462
			計 (18,356)
清掃費	内 容	個数	場所	金額
	○ 日常清掃、定期清掃		全館	14,688
			計 (14,688)
雑費	内 容	個数	場所	金額
	○ FD・SD研修費			200
	○ 卒業記念品			157
			計 (357)

※ 2026年度 重点事業計画

① 土地取得経費	2号館隣接地	① 150,000
② 教育環境整備		② 8,610
③ 新型コロナウイルス等感染症対策		③ 1,030
④ 特定天井改修 受変電設備取替更新等	2号館・4号館	④ 33,340
⑤ 奨学費 (高等教育修学支援制度) 他	補助金対象	⑤ 68,161
⑥ 施設の維持・修繕		⑥ 28,933
⑦ 電子稟議、電帳法、Web出願対策他業務支援	DX対策等	⑦ 1,069
計		291,143

資金収支計算書 (2022年度 ~ 2026年度)

学校法人和泉短期大学

(単位:千円)

科 目	2022年度	2023年度	決算	予算	予算	
			2024年度	2025年度	2026年度	
収入の部	学生生徒等納付金収入	457,359	428,966	368,825	296,480	239,810
	手数料収入	6,383	4,784	4,320	4,980	3,510
	寄付金収入	2,224	1,855	2,253	1,500	1,300
	補助金収入	80,857	84,515	69,568	64,238	97,572
	資産売却収入	0	0	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	24,260	26,654	31,994	31,053	21,906
	受取利息・配当金収入	20,039	21,633	23,730	21,900	23,900
	雑収入	45,923	8,863	8,667	11,799	8,937
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	132,410	100,040	82,380	106,700	48,305
	その他の収入	2,589,401	2,399,892	2,716,243	226,283	206,177
	資金収入調整勘定	△ 172,830	△ 139,452	△ 108,808	△ 93,444	△ 59,392
	資金収入計	3,186,026	2,937,750	3,199,172	671,489	592,025
	前年度繰越支払資金	1,284,569	1,019,644	887,859	695,891	406,000
合計	4,470,595	3,957,394	4,087,031	1,367,380	998,025	
支出の部	人件費支出	403,000	357,132	369,076	430,441	413,772
	教育研究経費支出	136,965	136,781	127,316	175,390	193,009
	管理経費支出	106,757	107,130	98,985	104,599	105,628
	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	450	1,544	3,586	227,374	182,307
	設備関係支出	2,109	1,216	4,994	6,457	4,427
	資産運用支出	2,576,775	2,420,227	2,771,656	112,900	58,900
	その他の支出	76,924	45,815	6,759	8,719	32,316
	予備費支出	0	0	0	30,000	30,000
	資金支出調整勘定	△ 38,010	△ 310	△ 2,901	△ 1,426	△ 22,710
	資金支出計	3,264,970	3,069,535	3,379,471	1,094,454	997,649
	翌年度繰越支払資金	1,205,625	887,859	707,560	272,926	376
合計	4,470,595	3,957,394	4,087,031	1,367,380	998,025	
資金収支差額	△ 78,944	△ 131,785	△ 180,299	△ 422,965	△ 405,624	
予算学生数	392名	363名	326名	268名	215名	
収容定員充足率 2026年度 320名	89.6%	90.8%	81.5%	67.0%	67.2%	
専門学校(専攻科)学生数	17名	21名	20名	8名	9名	
前年度対比学生数	7名	△25名	△38名	△70名	△52名	

事業活動収支計算書 (2022年度 ~ 2026年度)

学校法人和泉短期大学

(単位:千円)

科 目		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		
		金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	457,884	71.8%	429,491	74.3%	368,825	72.4%	296,480	68.6%	239,810	60.4%	
	手数料	6,383	1.0%	4,784	0.8%	4,320	0.8%	4,980	1.2%	3,510	0.9%	
	寄付金	2,224	0.3%	1,918	0.3%	2,253	0.4%	1,500	0.3%	1,300	0.3%	
	経常費補助金	80,857	12.7%	84,515	14.6%	69,568	13.7%	64,238	14.9%	97,572	24.6%	
	付随事業収入	24,260	3.8%	26,654	4.6%	31,994	6.3%	31,053	7.2%	21,906	5.5%	
	雑収入	45,923	7.2%	8,863	1.5%	8,667	1.7%	11,799	2.7%	8,937	2.3%	
	教育活動収入計	617,531	96.9%	556,225	96.3%	485,627	95.3%	410,050	94.9%	373,035	94.0%	
	教育活動支出の部	人件費	414,880	65.1%	371,604	64.3%	378,904	74.4%	457,203	105.8%	427,244	107.6%
		教育研究経費支出	185,813	29.1%	185,913	32.2%	174,429	34.2%	222,308	51.5%	244,907	61.7%
		(減価償却額)	48,848	6.8%	49,069	7.3%	47,112	7.1%	46,918	5.9%	51,898	6.6%
		管理経費支出	114,201	17.9%	114,545	19.8%	106,334	20.9%	112,326	26.0%	113,655	28.6%
		(減価償却額)	7,463	1.0%	7,377	1.1%	7,327	1.1%	7,727	1.0%	8,027	1.0%
		徴収不能額	525	0.1%	525	0.1%						
		教育活動支出計	715,419	112.2%	672,587	116.4%	659,667	129.5%	791,837	183.3%	785,806	198.0%
教育活動収支差額	△ 97,888	-15.9%	△ 116,362	-20.9%	△ 174,040	-35.8%	△ 381,787	-93.1%	△ 412,771	-110.7%		
教育活動外収入の部	資産運用収入	20,039	3.1%	21,633	3.7%	23,730	4.7%	21,900	5.1%	23,900	6.0%	
	教育活動外収入計	20,039		21,633		23,730		21,900		23,900		
	教育活動外支出計	0		0		0		0		0		
	教育活動外収支差額	20,039		21,633		23,730		21,900		23,900		
経常収支差額	△ 77,849	-12.2%	△ 94,729	-16.4%	△ 150,310	-29.5%	△ 359,887	-83.3%	△ 388,871	-98.0%		
特別収入の部	資産売却差額	0		0		0		0		0		
	その他の特別収入		0.0%		0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	特別収入計	0		0		0		0		0		
	資産処分差額	354		412		295		0		0		
	その他の特別支出	0		0		0		27,779		0		
	特別支出計	354		412		295		27,779		0		
特別収支差額	△ 354		△ 412		△ 295		△ 27,779		0			
【予備費】					0		30,000		30,000			
事業活動収入	637,570		577,858		509,357		431,950		396,935			
事業活動支出	715,773		672,999		659,962		849,616		815,806			
基本金組入前当年度収支差額 = 事業活動収支差額	△ 78,203	-12.3%	△ 95,141	-16.5%	△ 150,605	-29.6%	△ 417,666	-96.7%	△ 418,871	-105.5%		
基本金組入額	△ 2,239		△ 3,736		△ 5,238		△ 126,341		△ 37,099			
当年度収支差額	△ 80,442		△ 98,877		△ 155,843		△ 544,007		△ 455,970			
前年度繰越収支差額	2,590,516		2,510,074		2,411,197		2,051,865		1,507,858			
基本金取崩額					0							
翌年度繰越収支差額	2,510,074		2,411,197		2,255,354		1,507,858		1,051,888			
事業活動収支差額比率	-12.3%		-16.5%		-29.6%		-96.7%		-105.5%			
教育活動収入 - (教育活動支出 - 減価償却費)	△ 41,577		△ 59,916		△ 119,601		△ 327,142		△ 352,846			

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
基本金組入額	△ 2,239	0.4%	△ 3,736	0.6%	△ 5,238	1.0%	△ 126,341	29.2%	△ 37,099	9.3%
(第1号基本金組入額)	△ 614	0.1%	△ 1,759	0.3%	△ 3,232	0.6%	△ 224,441	52.0%	△ 185,199	46.7%
(第2号基本金組入額)		0.0%		0.0%		0.0%	100,000	-23.2%	150,000	-37.8%
(第3号基本金組入額)	△ 1,625	0.3%	△ 1,977	0.3%	△ 2,006	0.4%	△ 1,900	0.4%	△ 1,900	0.5%
(第4号基本金組入額)	0		0		0		0		0	